

たぶんかきょうせい  
多文化共生についての

しみんあんけーとけっか  
市民アンケート結果

がいこくじんしみん  
(外国人市民)

ねん がつばん  
2024年01月版



# もくじ 目次

1	調査の概要	1
2	調査結果	2
	(1) あなたのことについて	2
①	Q1 性別	2
②	Q2 年齢	3
③	Q3 国籍	4
④	Q4 在留資格	5
⑤	Q5 居住地区	7
⑥	Q6 日本での在住年数	9
⑦	Q7 安城市での在住年数	10
⑧	Q8 安城市での生活しやすさ	11
⑨	Q9 安城市での居住意向	12
	(2) 仕事について	13
①	Q10 仕事	13
②	Q10-1 通勤通学エリア	14
	(3) 年金について	15
①	Q11 年金の加入	15
②	Q11-1 年金未加入の理由	16
③	Q12 年金受給状況	17
④	Q13 今後の生活での不安	18
	(4) あなたの子どもについて	19
①	Q14 子どもの有無	19
②	Q14-1 子どもの年齢	20
③	Q14-2 子どもへの日本語学習の意向	21

④	Q14-2-1	希望する子どもの日本語学習の方法	22
⑤	Q14-3	子どもの中学校卒業後の進路	23
⑥	Q14-4	子育てや教育での心配	24
(5)		家族や日本人の友だちについて	25
①	Q15	家族と話すときの言語	25
②	Q16	家族以外で仲のよい日本人の有無	26
③	Q16-1	仲のよい日本人について	27
④	Q17	要介護者の有無	28
(6)		地域とのかかわりについて	29
①	Q18	町内会・自治会への加入状況	29
②	Q18-1	町内会・自治会未入会の理由	31
③	Q19	まちのイベントへの参加の有無	32
④	Q19-1	まちのイベント未参加の理由	33
⑤	Q20	今後のまちのイベントへの参加意向	34
(7)		あなたの日本語について	35
①	Q21	日本語能力(聞く)	35
②	Q21	日本語能力(話す)	36
③	Q21	日本語能力(読む)	37
④	Q21	日本語能力(書く)	38
⑤	Q22	日本語で困ったこと	39
⑥	Q23	これまでの日本語勉強方法	40
⑦	Q24	日本語の勉強意向	41
⑧	Q24-1	希望する日本語の勉強方法	42
⑨	Q24-2	日本語を勉強できない、したくない理由	43
(8)		情報を手に入れる方法、相談について	44
①	Q25	情報の入手方法	44
②	Q26	日本での生活に困った時の相談相手	45

③	Q27	おな くに ひと      こうりゅうばしょ	同じ国の人との交流場所.....	46
④	Q28	にほん    こま                                  そうだん	日本で困っていること・相談したいこと.....	47
(9) 防災について.....				49
①	Q29	ひなんじよなど    にんちど	避難所等の認知度.....	49
②	Q30	は    ざーど   まっぷ    など    にんちど	「ハザードマップ」等の認知度.....	50
③	Q31	ひなんくんれん    けいけん    う    む	避難訓練の経験の有無.....	51
④	Q32	さいがい                          じゅんびじょうきょう	災害への準備状況.....	52
⑤	Q33	さいがいかんけい    じょうほう    し    ほうほう	災害関係の情報を知る方法.....	53
(10) 安城市の取組について.....				54
①	Q34	つか    ばしょ	よく使う場所.....	54
②	Q35	あんじょうし    がいこくじんしえん    たぶんかきょうせい    とりくみ    りよう    にんち	安城市の外国人支援、多文化共生の取組の利用・認知.....	55
(11) 多文化共生について.....				56
①	Q36		これからやってみたいこと.....	56
②	Q37	たぶんかきょうせい    すず                          ひつよう    とりくみ	多文化共生を進めるため必要な取組.....	57

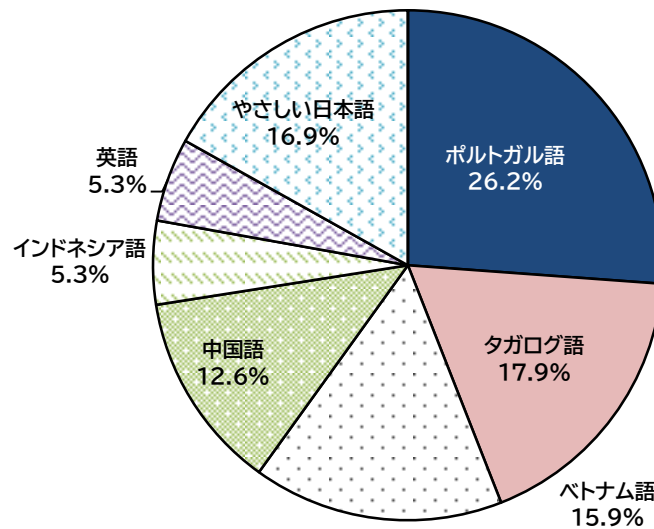
# I 調査の概要

図表I-1 調査の概要

配った人	安城市に住む16歳以上の外国人市民
調べた期間	2023年11月13日～12月15日
配った数・ 集めた数	配布数1,000件 回収数302件 (回収率30.2%) 届かなかった数10件
答えた方法	紙に書いて答えた166件 (55.0%) Webで答えた130件 (43.0%) SNSから答えた6件 (2.0%)

回答言語

(n=302)

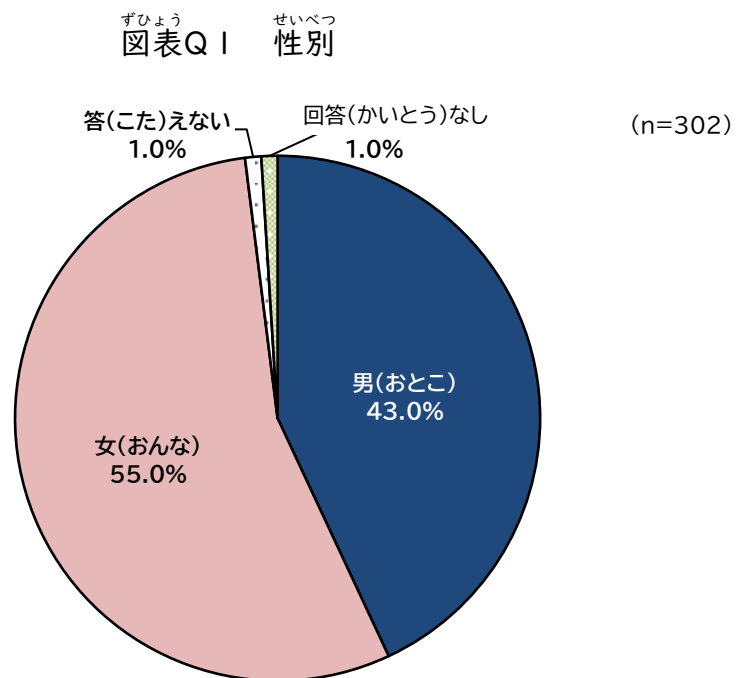


## 2 調査結果

### (1) あなたのことについて

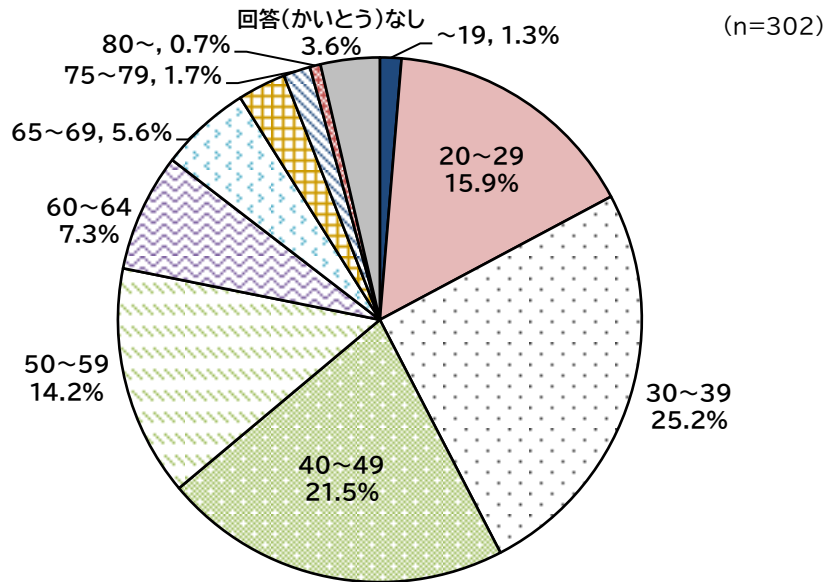
#### ① Q1 性別

「女」の割合が最も高く 55.0%である。次いで、「男（43.0%）」、「答えない（1.0%）」、「回答しない（1.0%）」である。

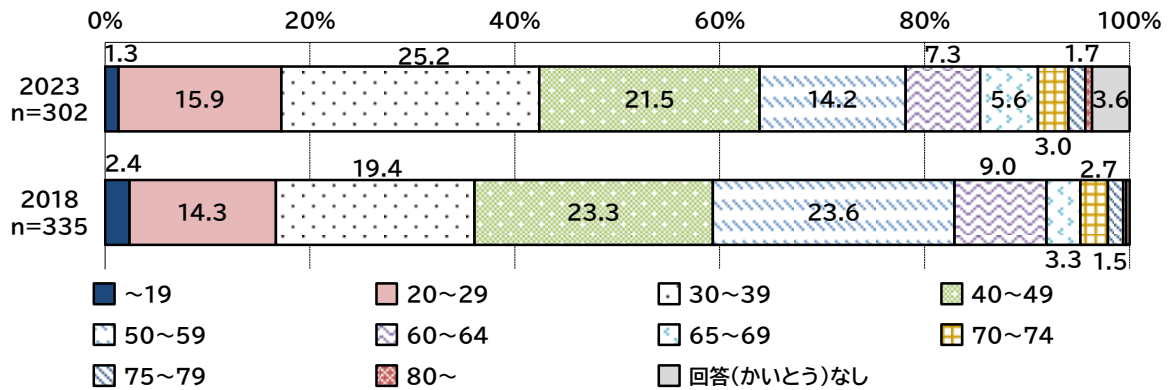


② Q2 ねんれい 年齢

ずひょう ねんれい  
図表Q2 年齢



ねんちようさ ひかく  
<2018年調査との比較>

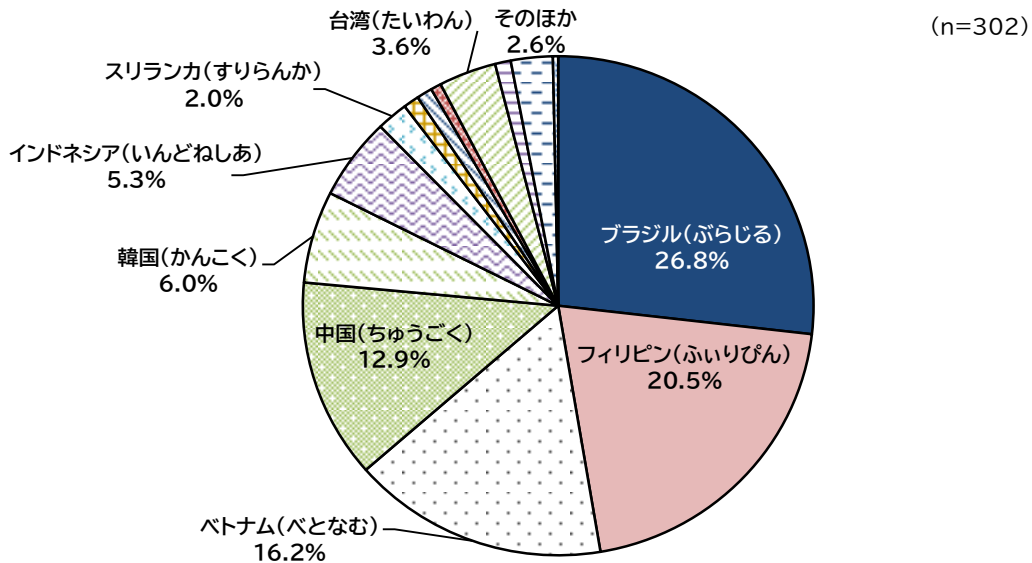




③ Q3 国籍

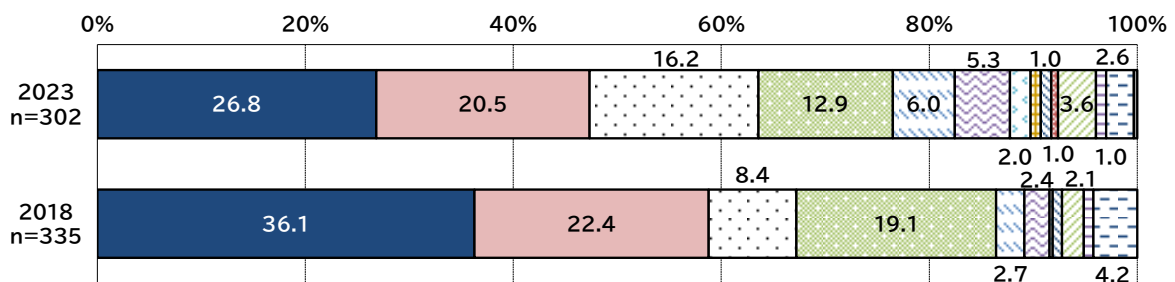
「ブラジル」の割合が最も高く26.8%である。次いで、「フィリピン（20.5%）」、「ベトナム（16.2%）」である。

図表Q3 国籍



ブラジル	フィリピン	ベトナム	中国	韓国	インドネシア	スリランカ
26.8%	20.5%	16.2%	12.9%	6.0%	5.3%	2.0%
ミャンマー	ペルー	ネパール	台湾	パキスタン	その他	回答なし
1.0%	1.0%	0.7%	3.6%	1.0%	2.6%	0.3%

<2018年調査との比較>



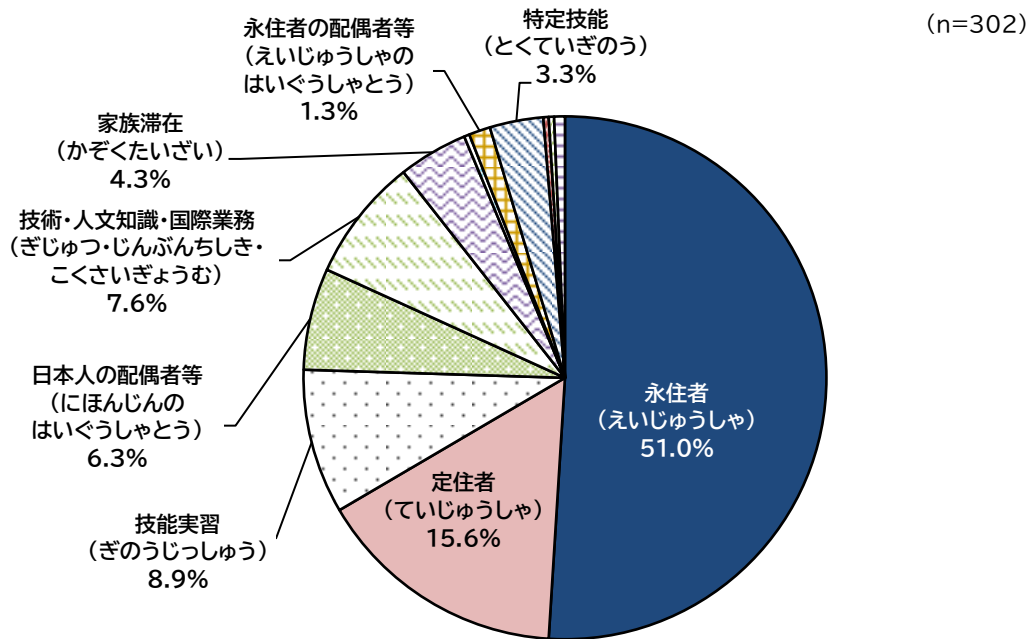
- ブラジル(ぶらじる)
- フィリピン(ふいりぴん)
- ベトナム(べとなむ)
- 中国(ちゅうごく)
- 韓国(かんこく)※
- インドネシア(いんどねしあ)
- スリランカ(すりらんか)
- ミャンマー(みやんまー)
- ペルー(ペルー)
- ネパール(ねばーる)
- 台湾(たいわん)
- パキスタン(ぱきすたん)
- その他(国(くに)の名前(なまえ))
- 回答(かいとう)なし

※2018年は韓国・朝鮮

④ Q4 在留資格

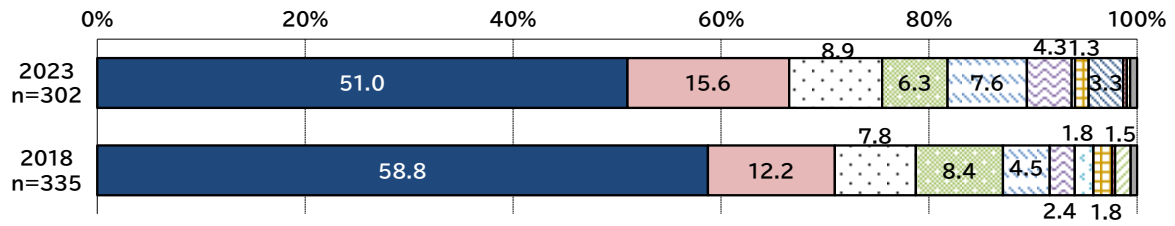
「永住者」の割合が最も高く51.0%である。次いで、「定住者（15.6%）」、「技能実習（8.9%）」である。

図表Q4 在留資格



えいじゅうしゃ 永住者	ていじゅうしゃ 定住者	ぎのうじっしゅう 技能実習	にほんじん 日本人の はいぐうしゃとう 配偶者等	ぎじゆつ じんぶんちしき 技術・人文知識・ こくさいぎょうむ 国際業務	かぞくたいざい 家族滞在
51.0%	15.6%	8.9%	6.3%	7.6%	4.3%
とくていかつどう 特定活動・ こうどせんもんしよく 高度専門職	えいじゅうしゃ 永住者の はいぐうしゃとう 配偶者等	とくていぎのう 特定技能	ぎのう 技能	そのほか	かいとう 回答なし
0.3%	1.3%	3.3%	0.3%	0.3%	0.7%

ねんちようさ ひかく  
 <2018年調査との比較>



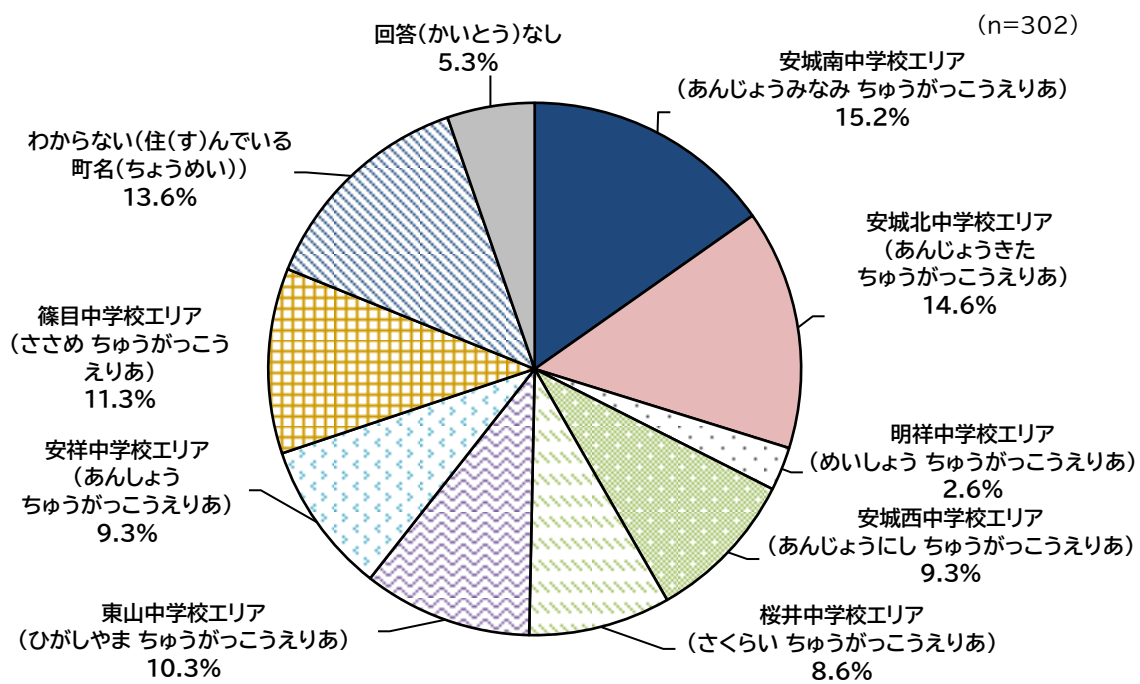
- 永住者(えいじゅうしゃ)
- 定住者(ていじゅうしゃ)
- 技能実習(ぎのうじっしゅう)
- 日本人の配偶者等(にほんじんのはいぐうしゃとう)
- 技術・人文知識・国際業務(ぎじゆつ・じんがんちしき・こくさいぎょうむ)
- 家族滞在(かぞくたいざい)
- 特定活動(とくていかつどう)・高度専門職(こうどせんもんしよく)
- 永住者の配偶者等(えいじゅうしゃのはいぐうしゃとう)
- 特定技能(とくていぎのう)※
- 技能(ぎのう)

とくていぎのう ねん がつ ついか しかく  
 ※特定技能は 2019年4月から追加された資格

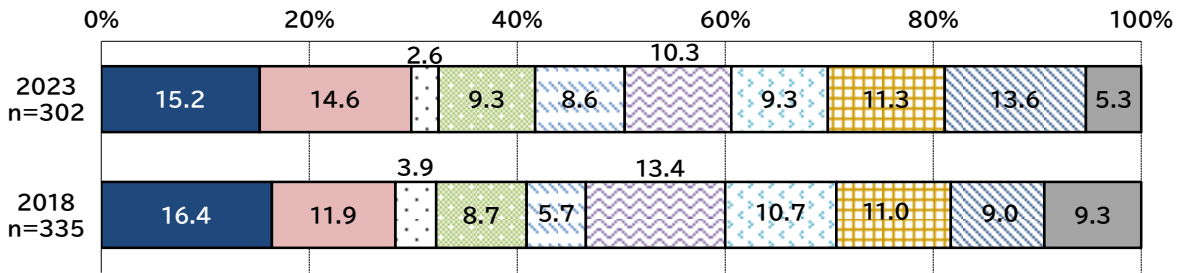
⑤ Q5 居住地区

「安城南中学校エリア」の割合が最も高く15.2%である。次いで、「安城北中学校エリア（14.6%）」、「わからない（住んでいる町名）（13.6%）」である。

図表Q5 居住地区

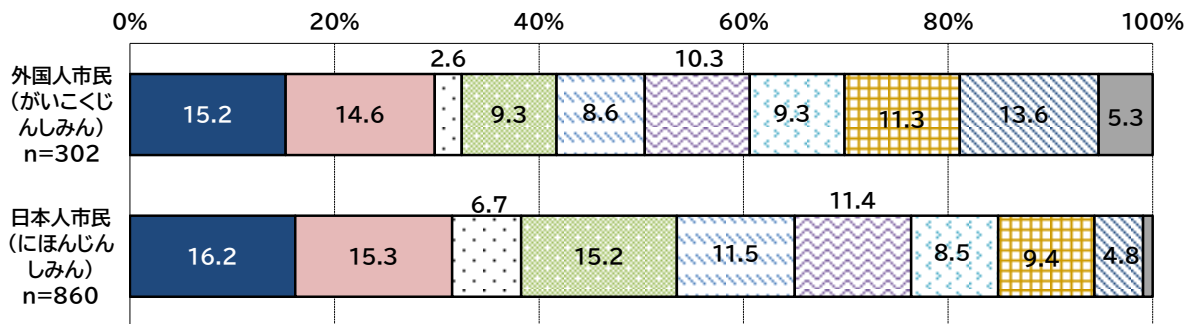


ねんちようさ ひかく  
 <2018年調査との比較>



- 安城南中学校エリア (あんじょうみなみ ちゅうがっこうえりあ)
- 安城北中学校エリア (あんじょうきた ちゅうがっこうえりあ)
- 明祥中学校エリア (めいしょう ちゅうがっこうえりあ)
- 安城西中学校エリア (あんじょうにし ちゅうがっこうえりあ)
- 桜井中学校エリア (さくらい ちゅうがっこうえりあ)
- 東山中学校エリア (ひがしやま ちゅうがっこうえりあ)
- 安祥中学校エリア (あんしょう ちゅうがっこうえりあ)
- 篠目中学校エリア (ささめ ちゅうがっこうえりあ)
- わからない
- 回答(かいとう)なし

にほんじんしみんちようさ ひかく  
 <日本人市民調査との比較>

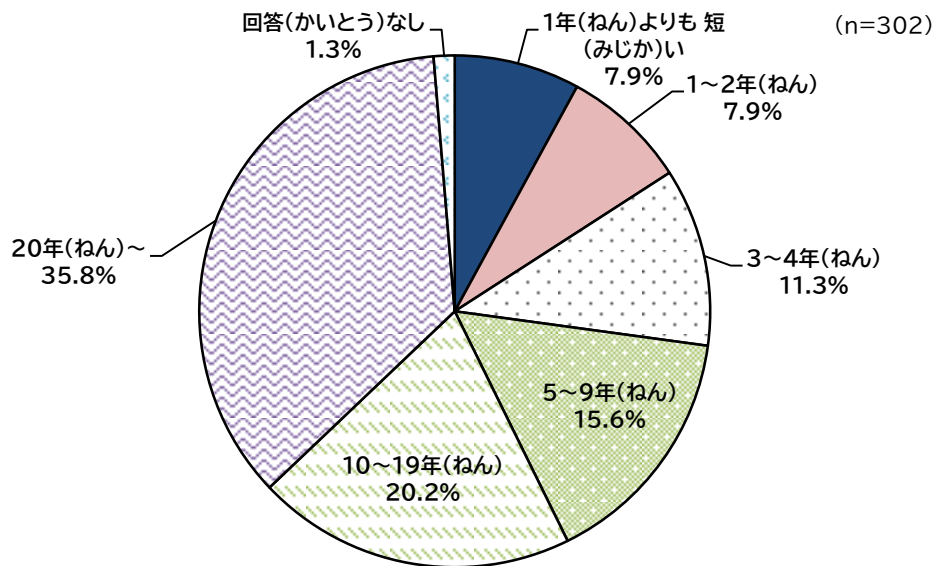


- 安城南中学校エリア (あんじょうみなみ ちゅうがっこうえりあ)
- 安城北中学校エリア (あんじょうきた ちゅうがっこうえりあ)
- 明祥中学校エリア (めいしょう ちゅうがっこうえりあ)
- 安城西中学校エリア (あんじょうにし ちゅうがっこうえりあ)
- 桜井中学校エリア (さくらい ちゅうがっこうえりあ)
- 東山中学校エリア (ひがしやま ちゅうがっこうえりあ)
- 安祥中学校エリア (あんしょう ちゅうがっこうえりあ)
- 篠目中学校エリア (ささめ ちゅうがっこうえりあ)
- わからない
- 回答(かいとう)なし

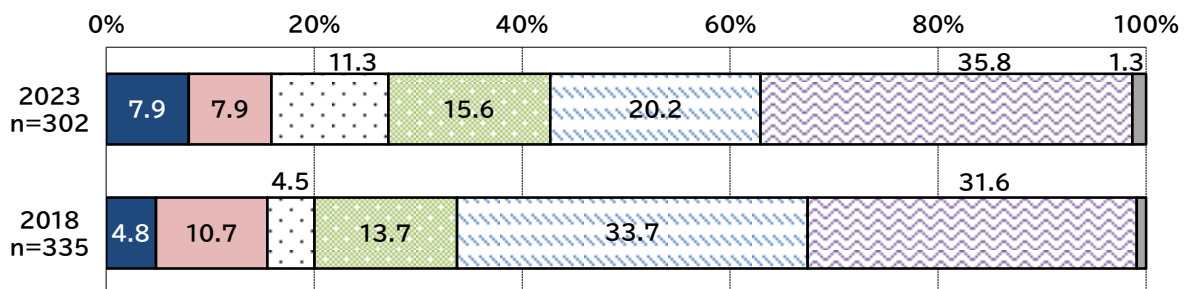
⑥ Q6 <sup>にほん</sup> <sup>ざいじゅうねんすう</sup> 日本での在住年数

「20年(ねん)~」の割合が最も高く35.8%である。次いで、「10~19年(ねん) (20.2%)」、  
「5~9年(ねん) (15.6%)」である。

ずひょう 図表Q6 <sup>にほん</sup> <sup>ざいじゅうねんすう</sup> 日本での在住年数



<2018年調査との比較>

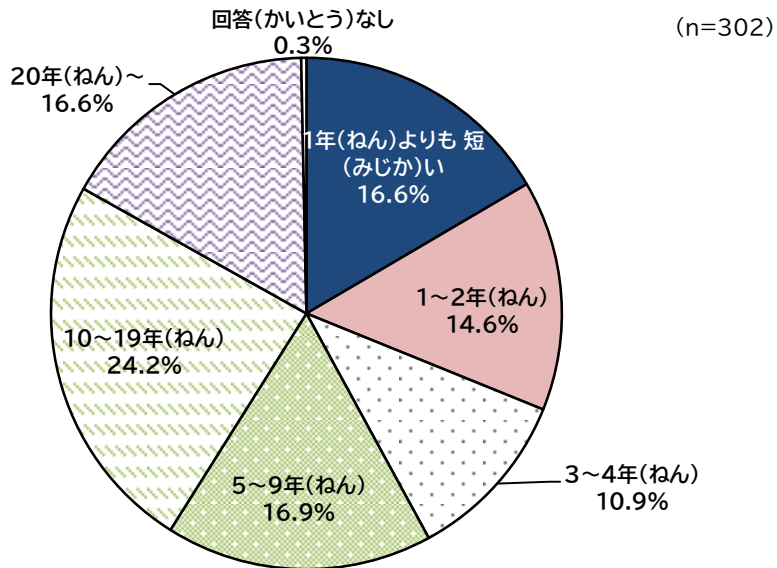


- 1年(ねん)よりも短(みじか)い
- 1~2年(ねん)
- 3~4年(ねん)
- 5~9年(ねん)
- 10~19年(ねん)
- 20年(ねん)~
- 回答(かいとう)なし

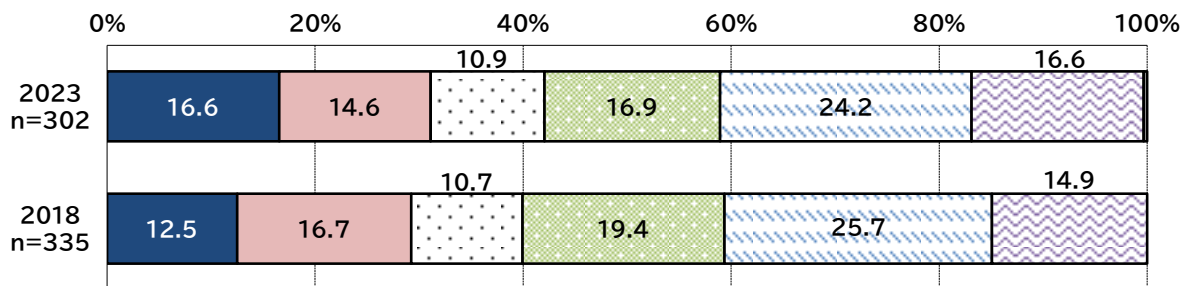
⑦ Q7 安城市での在住年数

「10～19年」の割合が最も高く24.2%である。次いで、「5～9年（16.9%）」、「1年よりも短い（16.6%）」、「20年～（16.6%）」である。

図表Q7 安城市での在住年数



<2018年調査との比較>

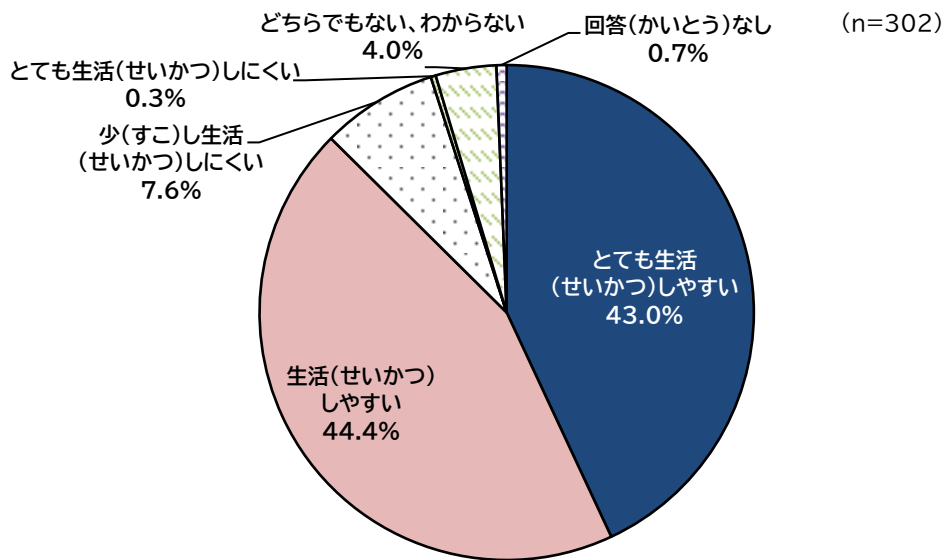


- 1年(ねん)よりも短(みじかい)
- 1～2年(ねん)
- 3～4年(ねん)
- 5～9年(ねん)
- 10～19年(ねん)
- 20年(ねん)～
- 回答(かいとう)なし

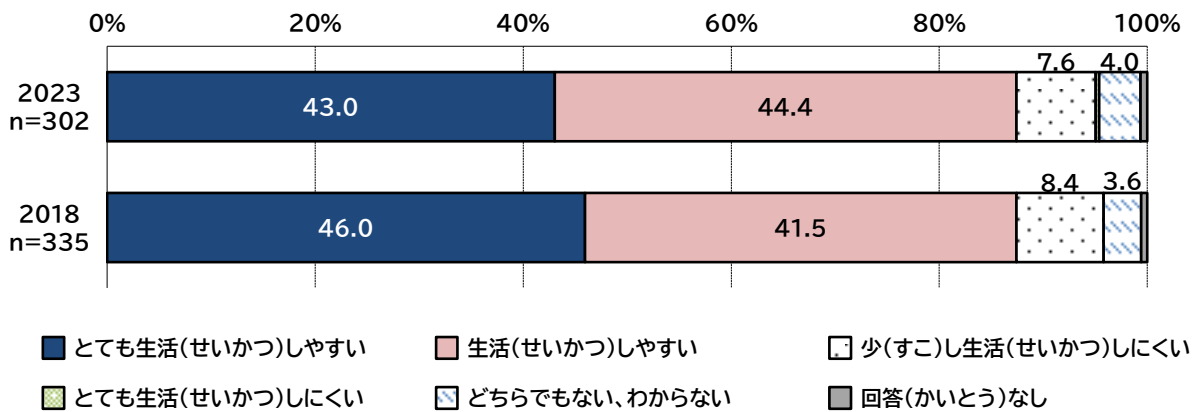
⑧ Q8 安城市での生活しやすさ

「生活しやすい」の割合が最も高く44.4%である。次いで、「とても生活しやすい(43.0%)」、「少し生活しにくい(7.6%)」である。

図表Q8 安城市での生活しやすさ



<2018年調査との比較>

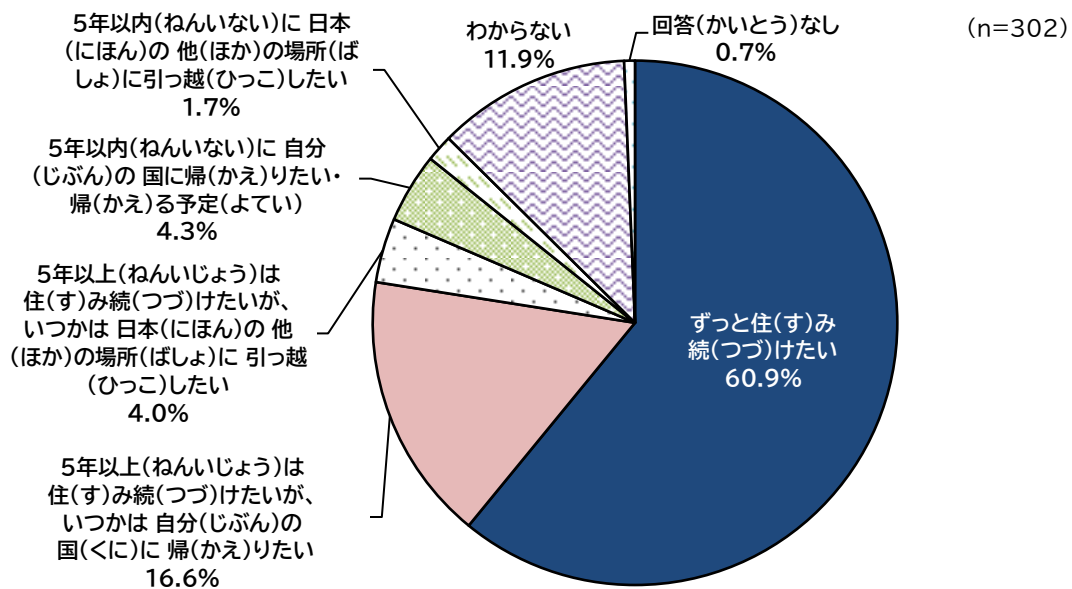




⑨ Q9 <sup>あんじょうし</sup>安城市での<sup>きょじゅういこう</sup>居住意向

「<sup>す</sup>ずっと<sup>つづ</sup>住み続けたい」の割合が<sup>わりあい</sup>最も<sup>も</sup>高く<sup>たか</sup>60.9%である。次いで、「<sup>ねんいじょう</sup>5年以上は<sup>す</sup>住み続けたいが、いつかは<sup>じぶん</sup>自分の<sup>くに</sup>国に<sup>かえ</sup>帰りたい（16.6%）」、「<sup>わからない</sup>わからない（11.9%）」である。

ずひょう 図表Q9 <sup>あんじょうし</sup>安城市での<sup>きょじゅういこう</sup>居住意向

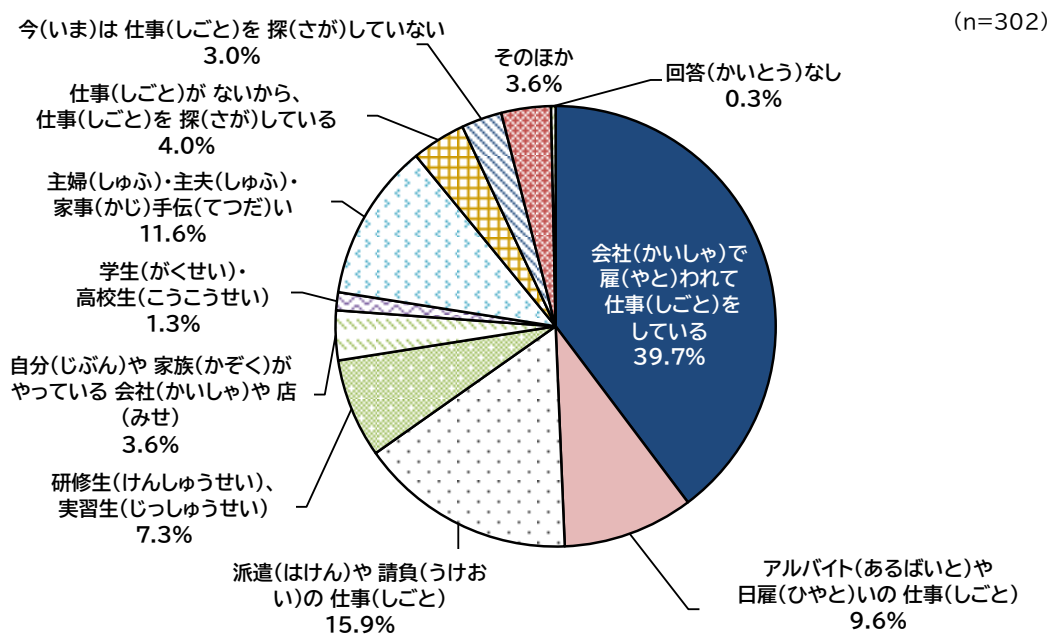


## (2) 仕事について

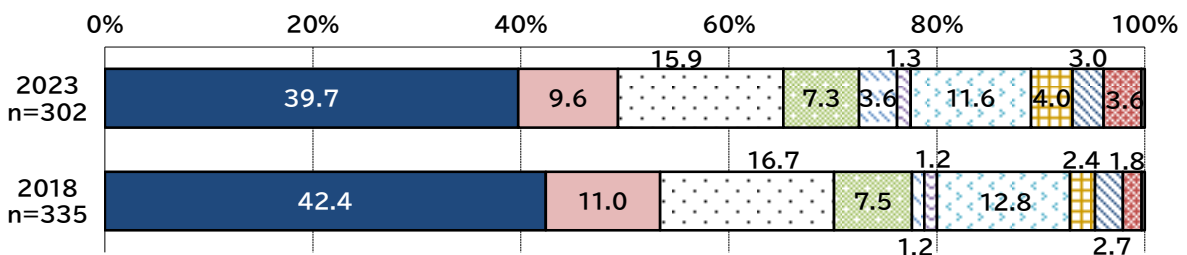
### ① Q10 仕事

「会社で雇われて仕事をしている」の割合が最も高く39.7%である。次いで、「派遣や請負の仕事（15.9%）」、「主婦・主夫・家事手伝い（11.6%）」である。

図表Q10 仕事



### <2018年調査との比較>

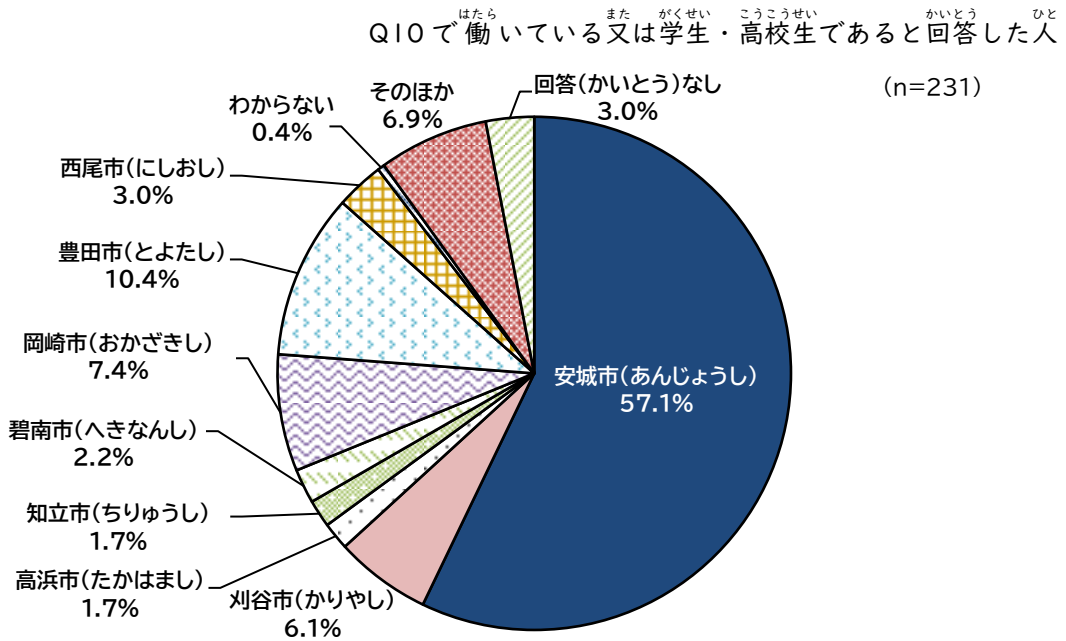


- 会社(かいしゃ)で雇(やと)われて仕事(しごと)をしている
- アルバイト(あるぱいと)や日雇(ひやと)いの仕事(しごと)
- 派遣(はけん)や請負(うけおい)の仕事(しごと)
- 研修生(けんしゅうせい)、実習生(じっしゅうせい)
- 自分(じぶん)や家族(かぞく)がやっている会社(かいしゃ)や店(みせ)
- 学生(がくせい)・高校生(こうこうせい)
- 主婦(しゅふ)・主夫(しゅふ)・家事(かじ)手伝(てつだ)い
- 仕事(しごと)がないから、仕事(しごと)を探(さが)している
- 今(いま)は仕事(しごと)を探(さが)していない
- その他

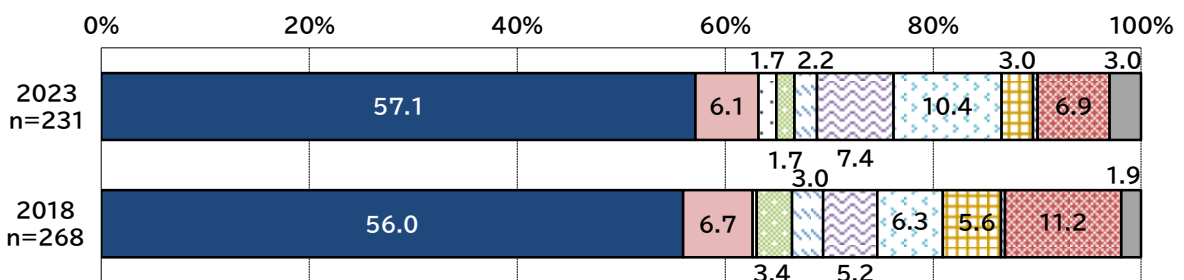
② Q10-1 通勤通学エリア

「安城市」の割合が最も高く 57.1%である。次いで、「豊田市 (10.4%)」、「岡崎市 (7.4%)」である。

図表Q10-1 通勤通学エリア



<2018年調査との比較>



- 安城市(あんじょうし)
- 刈谷市(かりやし)
- 高浜市(たかはまし)
- 知立市(ちりゅうし)
- 碧南市(へきなんし)
- 岡崎市(おかざきし)
- 豊田市(とよたし)
- 西尾市(にしおし)
- わからない
- そのほか
- 回答(かいとう)なし

### (3) 年金について

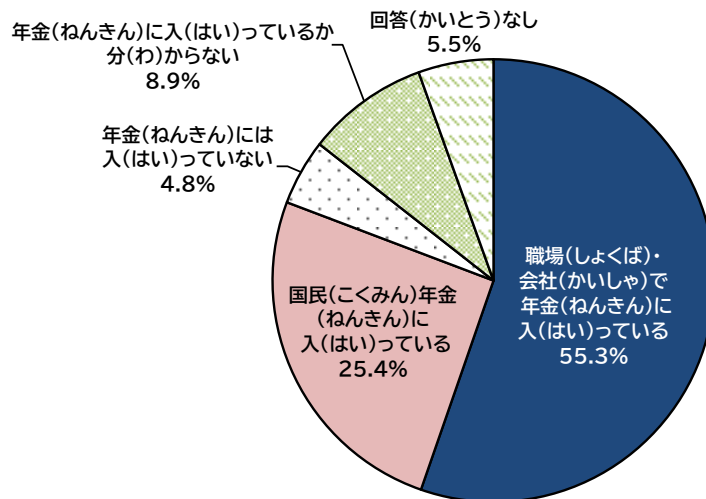
#### ① Q11 年金の加入

「職場・会社で年金に入っている」の割合が最も高く 55.3%である。次いで、「国民年金に入っている (25.4%)」、「年金に入っているか分からない (8.9%)」である。

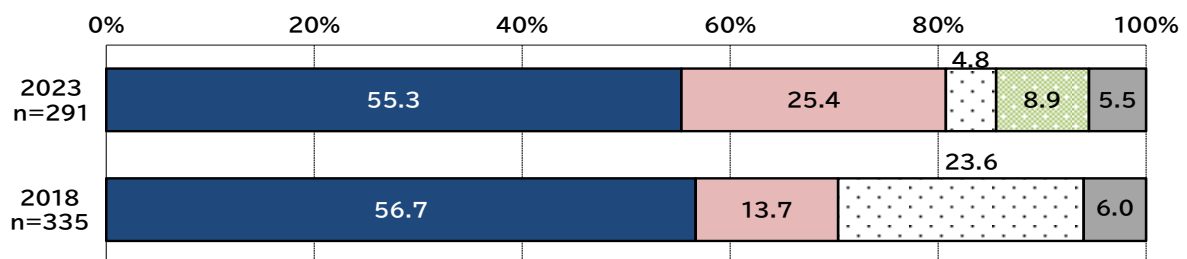
図表Q11 年金の加入

20歳以上の人

(n=291)



#### <2018年調査との比較>



- 職場(しよくば)・会社(かいしゃ)で年金(ねんきん)に入(はい)っている※1
- 国民(こくみん)年金(ねんきん)に入(はい)っている※2
- 年金(ねんきん)には入(はい)っていない※3
- 年金に入(はい)っているか分(わ)からない
- 回答(かいとう)なし

※1 2018年は「自分や家族の職場・会社の厚生年金に入っている」

※2 2018年は「安城市の国民年金に入っている」

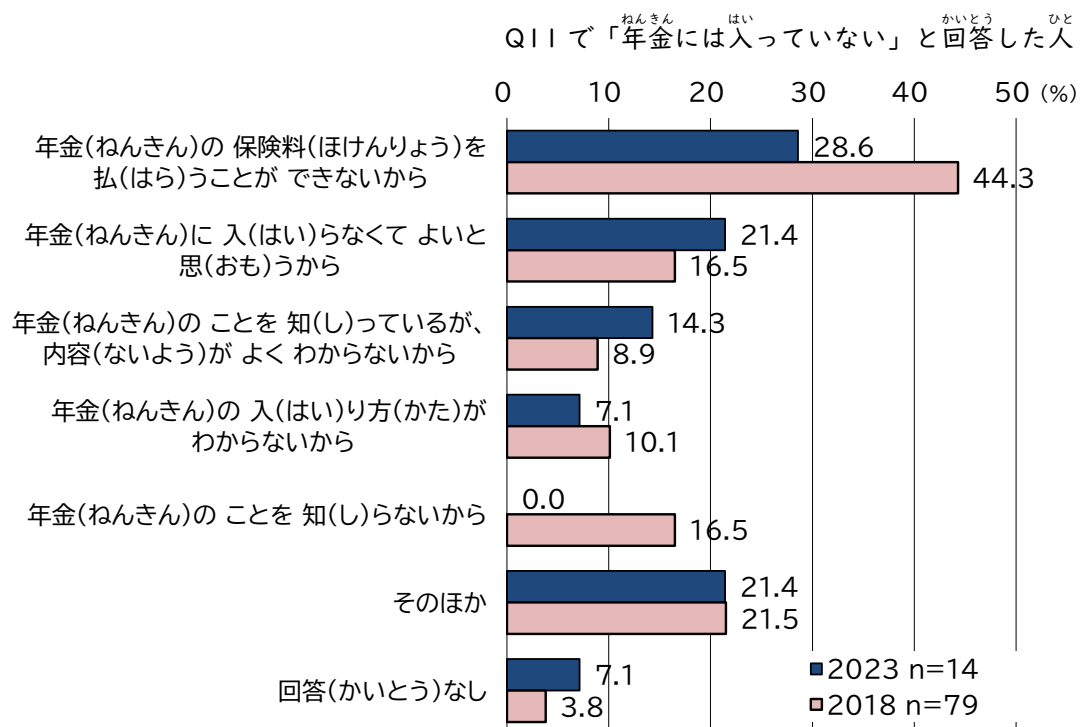
※3 2018年は「公的年金には入っていない」

## ② Q11-1 年金未加入の理由

「年金の保険料を払うことができないから」の割合が最も高く28.6%である。次いで、「年金に入らなくてよいと思うから（21.4%）」、「そのほか（21.4%）」、「年金のことを知っているが、内容がよくわからないから（14.3%）」である。

図表Q11-1 年金未加入の理由

### <2018年調査との比較>

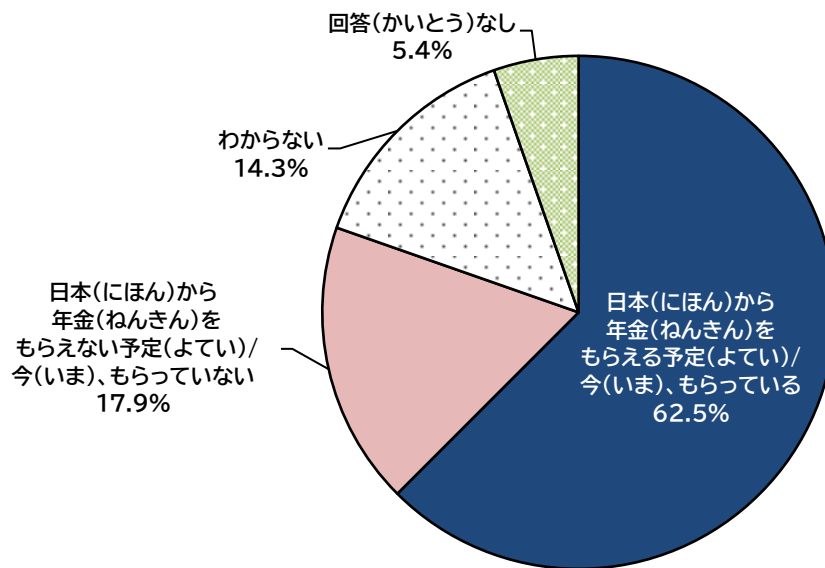


### ③ Q12 年金受給状況

「日本から年金をもらえる予定/今、もらっている」の割合が最も高く62.5%である。次いで、「日本から年金をもらえない予定/今、もらっていない（17.9%）」、「わからない（14.3%）」である。

図表Q12 年金受給状況

60歳以上のひと  
(n=56)

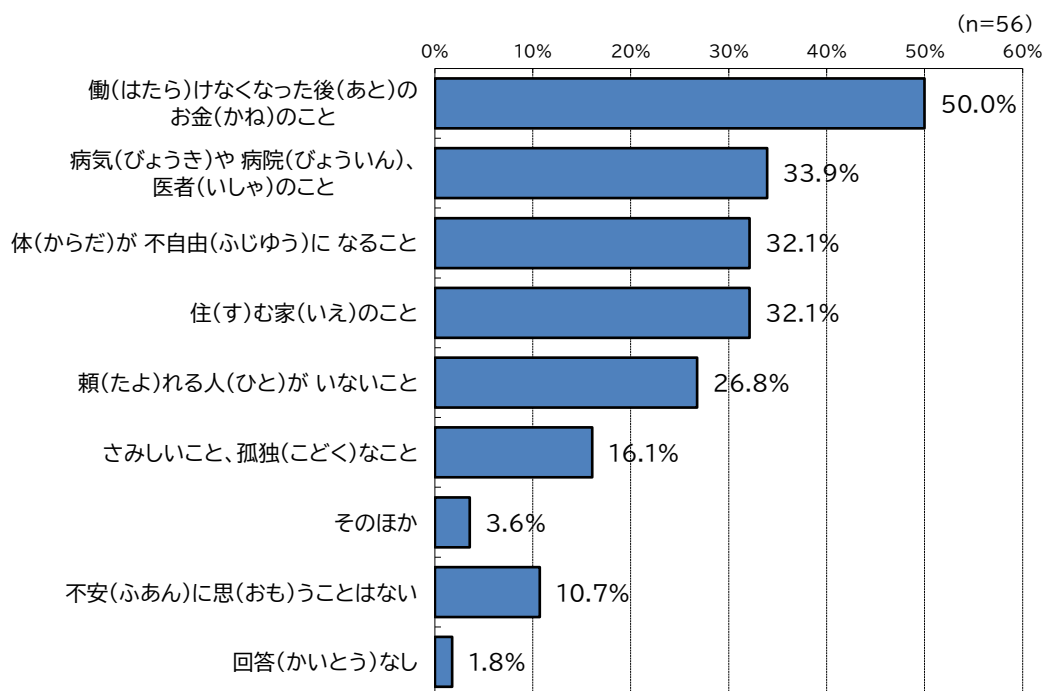


④ Q13 今後の生活での不安

「働けなくなった後のお金のこと」の割合が最も高く50.0%である。次いで、「病気や病院、医者のこと（33.9%）」、「体が不自由になること（32.1%）」、「住む家のこと（32.1%）」である。

図表Q13 今後の生活での不安

60歳以上のひと



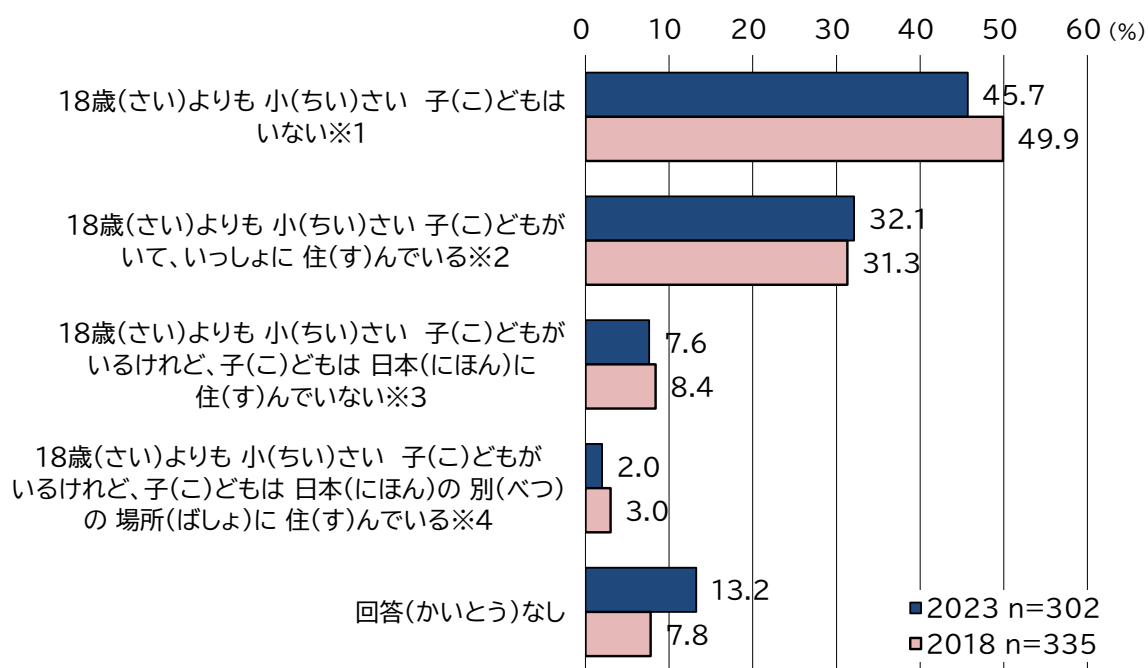
#### (4) あなたの子どもについて

##### ① Q14 子どもの有無

「18歳よりも小さい子どもはいない」の割合が最も高く45.7%である。次いで、「18歳よりも小さい子どもがいて、いっしょに住んでいる(32.1%)」、「18歳よりも小さい子どもがいるけれど、子どもは日本に住んでいない(7.6%)」である。

図表Q14 子どもの有無

##### <2018年調査との比較>



※1 2018年は「17歳よりも若い子どもはいない」

※2 2018年は「17歳よりも若い子どもがいて、いっしょに住んでいる」

※3 2018年は「17歳よりも若い子どもがいるけれど、子どもは日本には住んでいない」

※4 2018年は「17歳よりも若い子どもがいるけれど、子どもは日本の別の場所に住んでいる」

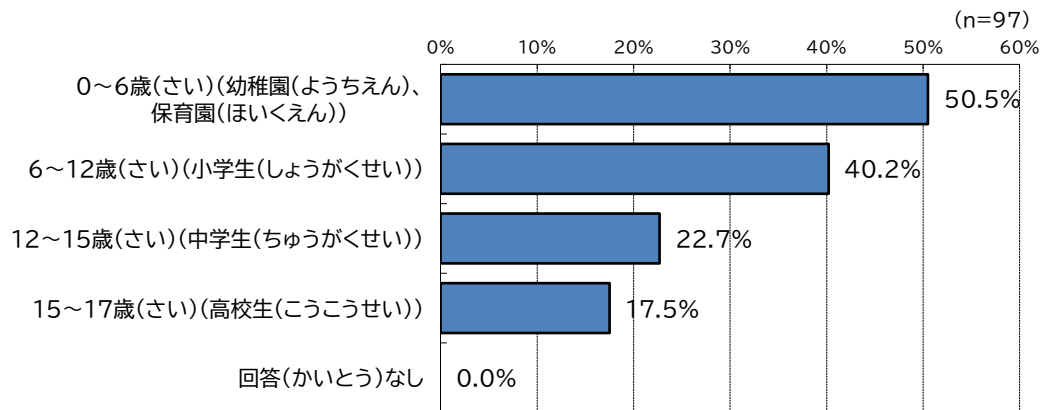


② Q14-1 子どもの年齢

「0～6歳（幼稚園、保育園）」の割合が最も高く50.5%である。次いで、「6～12歳（小学生）」（40.2%）、「12～15歳（中学生）」（22.7%）」である。

図表Q14-1 子どもの年齢

Q14で「18歳よりも小さい子どもがいて、いっしょに住んでいる」と回答した人

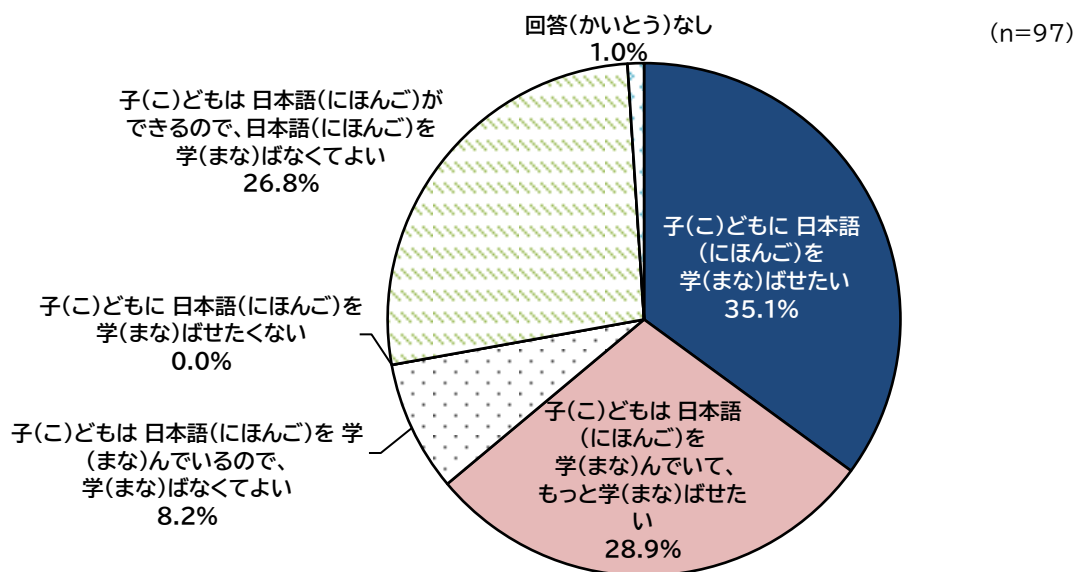


### ③ Q14-2 子どもへの日本語学習の意向

「子どもに日本語を学ばせたい」の割合が最も高く 35.1%である。次いで、「子どもは日本語を学んでいて、もっと学ばせたい (28.9%)」、「子どもは日本語ができるので、日本語を学ばなくてよい (26.8%)」である。

図表Q14-2 子どもへの日本語学習の意向

Q14で「18歳よりも小さい子どもがいて、いっしょに住んでいる」と回答した人



#### ④ Q14-2-1 希望する子どもの日本語学習の方法

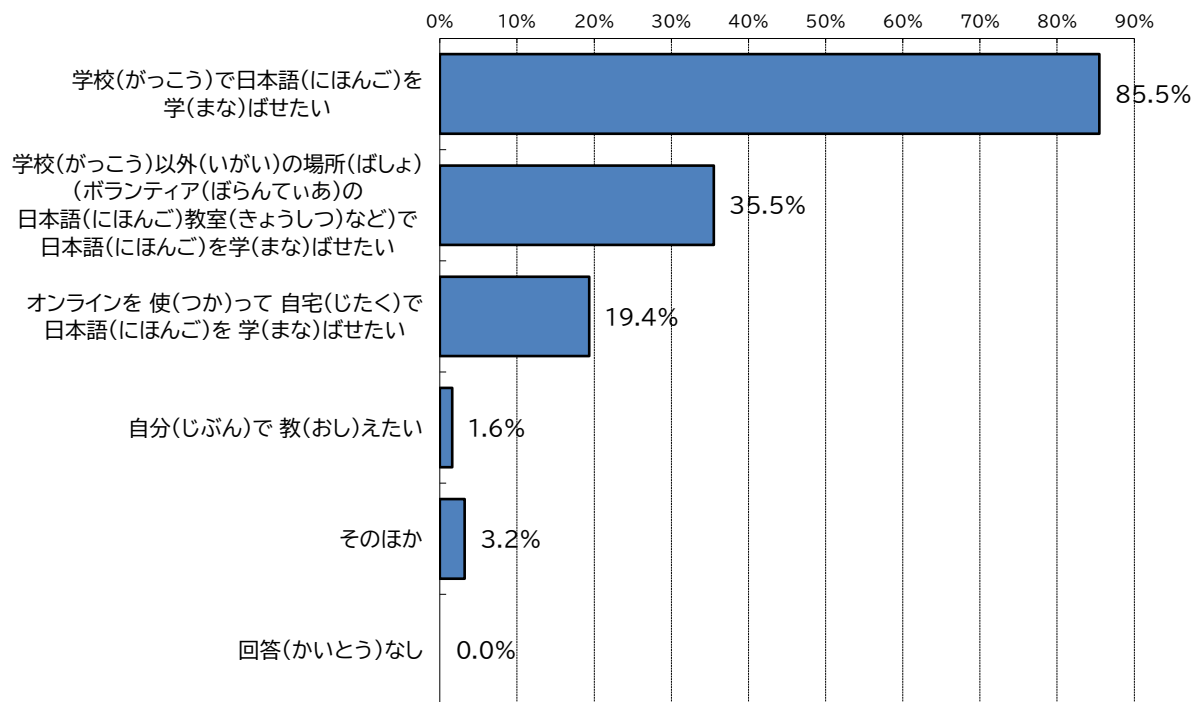
「学校で日本語を学ばせたい」の割合が最も高く85.5%である。次いで、「学校以外の場所（ボランティアの日本語教室など）で日本語を学ばせたい（35.5%）」、「オンラインを使って自宅で日本語を学ばせたい（19.4%）」である。

図表Q14-2-1 希望する子どもの日本語学習の方法

Q14-2で「子どもに日本語を学ばせたい」、

「子どもは日本語を学んでいて、もっと学ばせたい」と回答した人

(n=62)

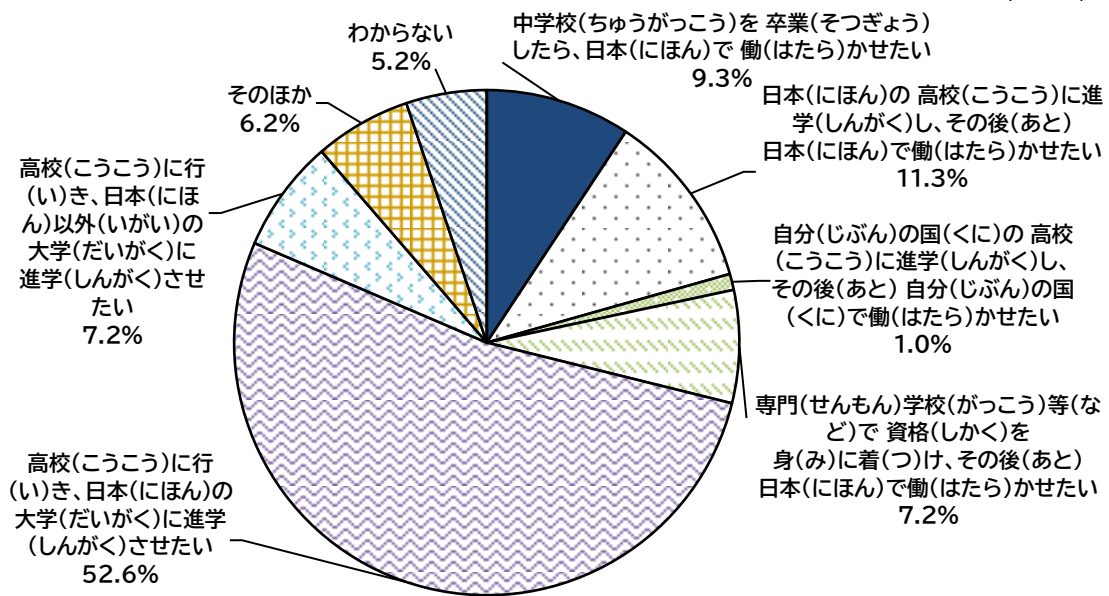


⑤ Q14-3 子どもの中学校卒業後の進路

「高校に行き、日本の大学に進学させたい」の割合が最も高く52.6%である。次いで、「日本の高校に進学し、その後日本で働かせたい(11.3%)」、「中学校を卒業したら、日本で働かせたい(9.3%)」である。

図表Q14-3 子どもの中学校卒業後の進路

Q14で「18歳よりも小さい子どもがいて、いっしょに住んでいる」と回答した人 (n=97)



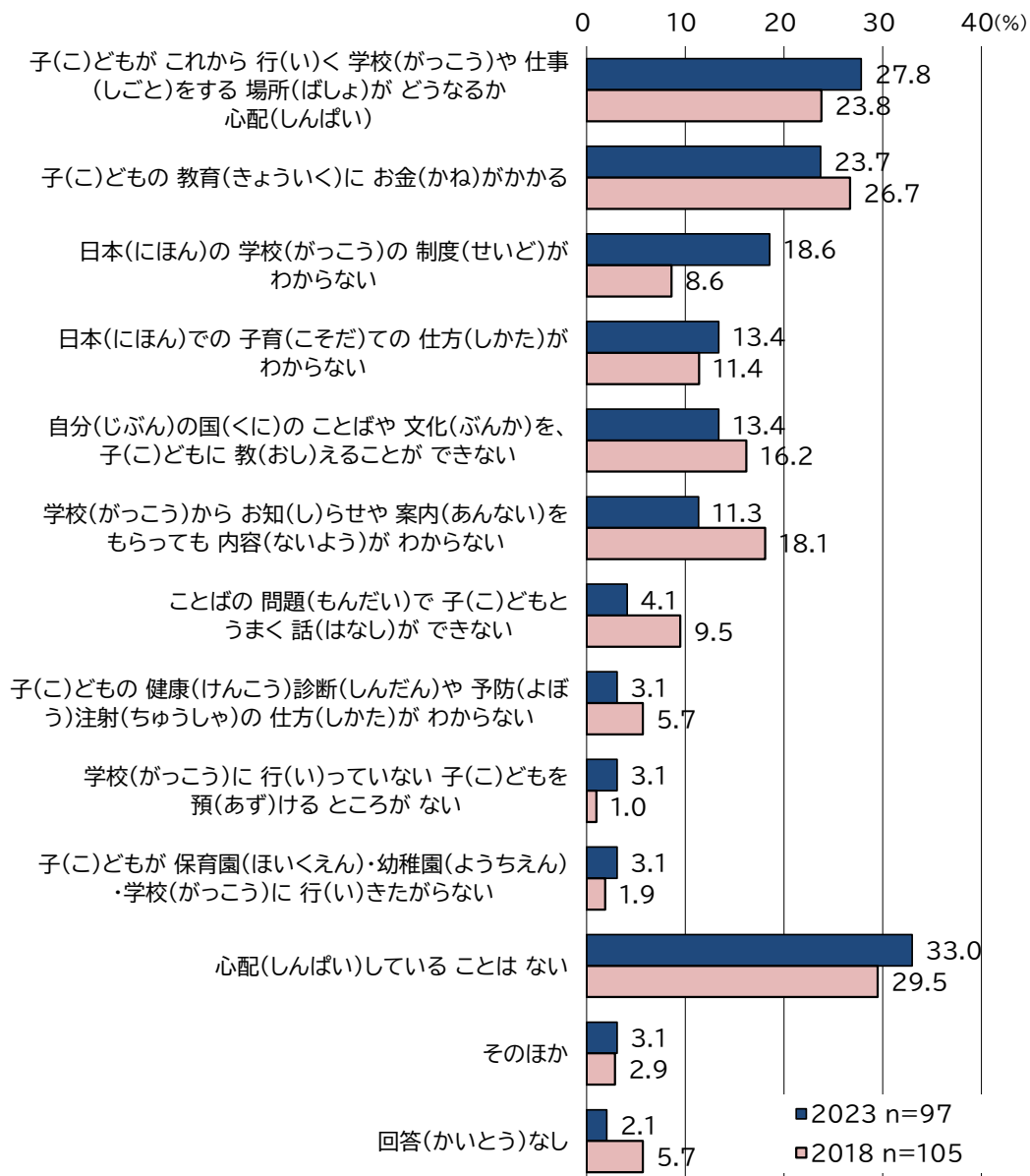
## ⑥ Q14-4 子育てや教育での心配

「心配していることはない」の割合が最も高く 33.0%である。次いで、「子どもがこれから行く学校や仕事をする場所がどうなるか心配 (27.8%)」、「子どもの教育にお金がかかる (23.7%)」である。

図表Q14-4 子育てや教育での心配

### <2018年調査との比較>

Q14で「18歳よりも小さい子どもがいて、いっしょに住んでいる」と回答した人

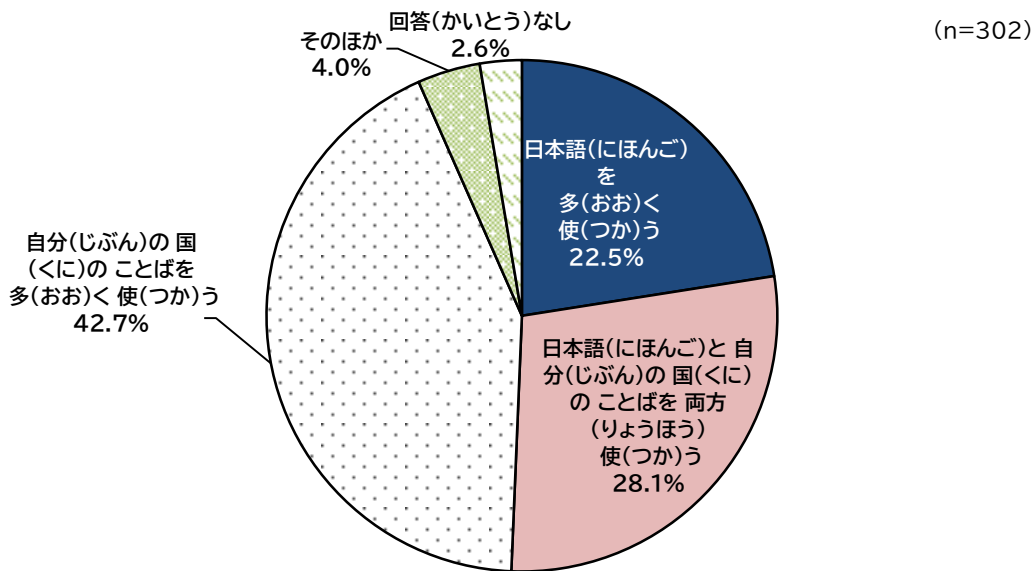


(5) 家族や日本人の友だちについて

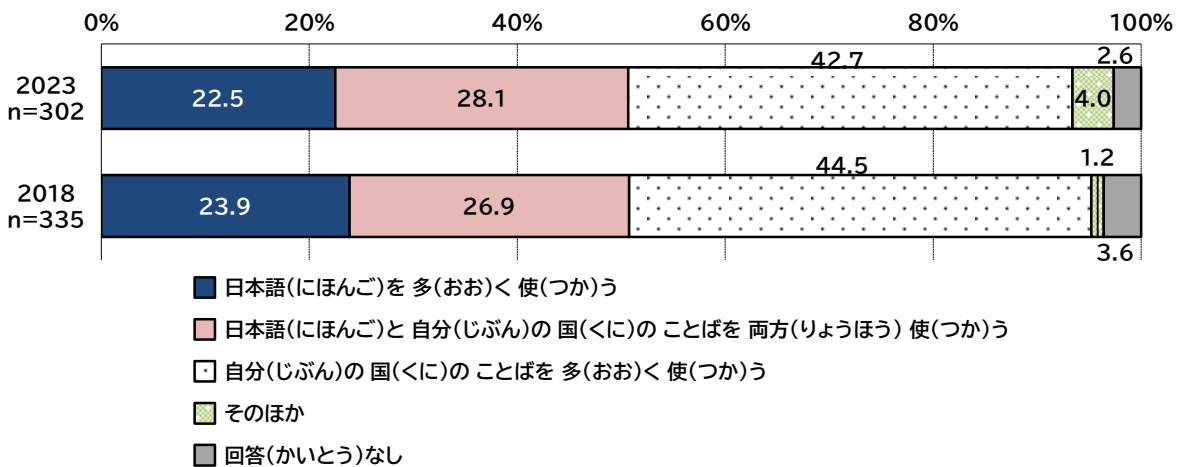
① Q15 家族と話すときの言語

「自分の国のことばを多く使う」の割合が最も高く42.7%である。次いで、「日本語と自分の国のことばを両方使う(28.1%)」、「日本語を多く使う(22.5%)」である。

図表Q15 家族と話すときの言語



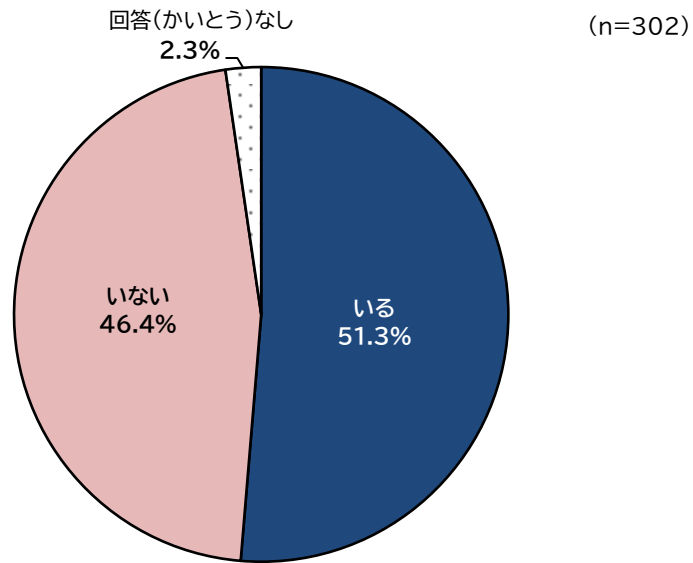
<2018年調査との比較>



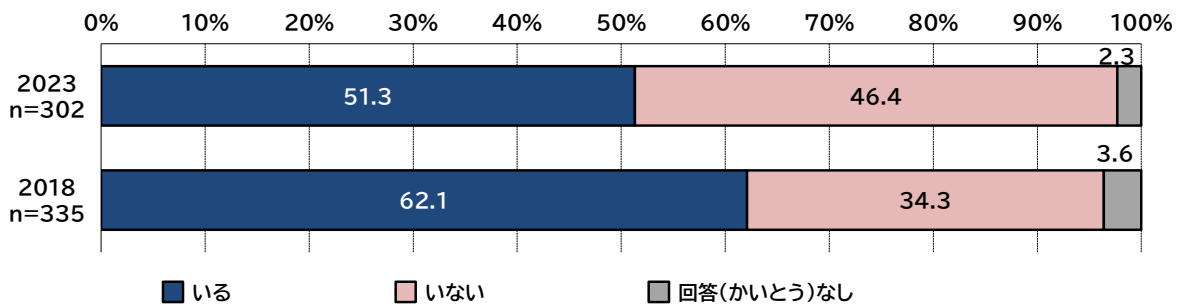
② Q16 家族以外で仲のよい日本人の有無

「いる」の割合が最も高く51.3%である。次いで、「いない（46.4%）」である。

図表Q16 家族以外で仲のよい日本人の有無



<2018年調査との比較>

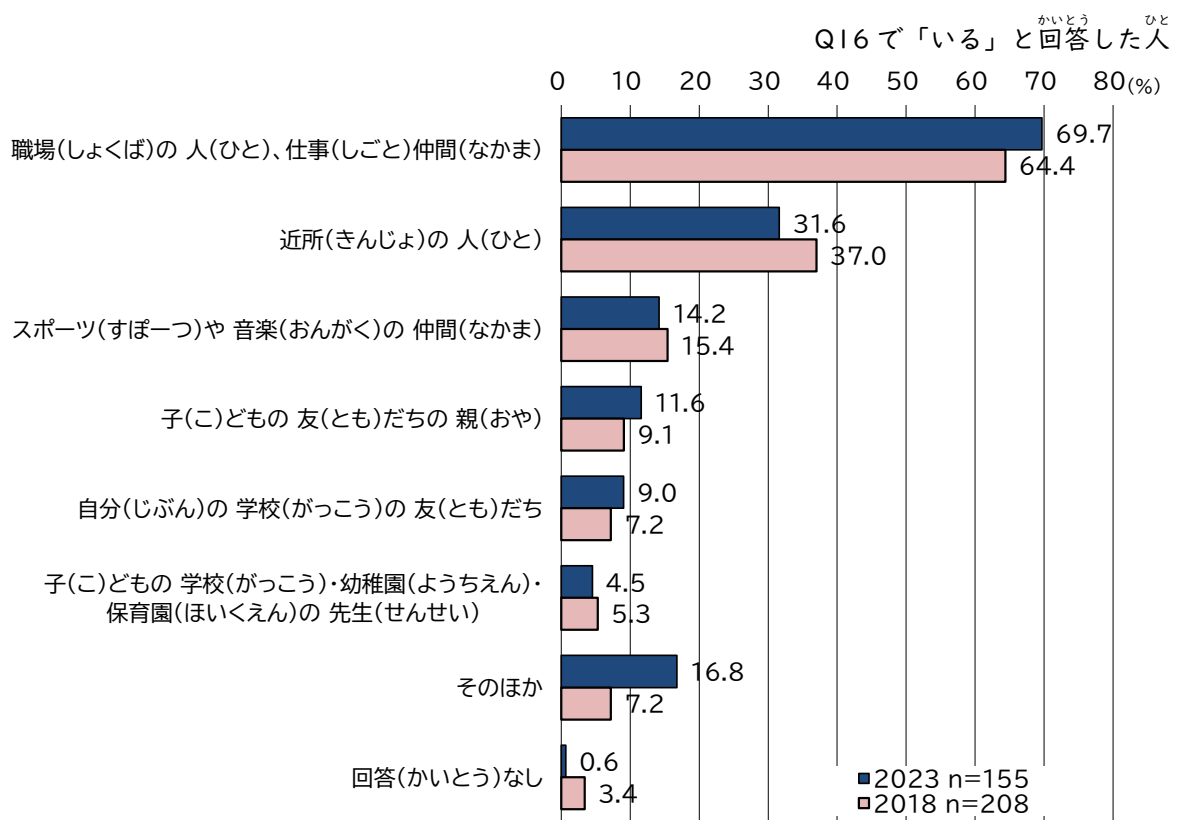


### ③ Q16-1 <sup>なか</sup> <sup>にほんじん</sup> 仲のよい日本人について

「<sup>しょくば</sup> <sup>ひと</sup> 職場の人、<sup>しごと</sup> <sup>なかま</sup> 仕事仲間」の割合が最も高く69.7%である。次いで、「<sup>きんじょ</sup> <sup>ひと</sup> 近所の人 (31.6%)」である。

ずひょう 図表Q16-1 <sup>なか</sup> <sup>にほんじん</sup> 仲のよい日本人について

#### <<sup>ねんちようさ</sup> <sup>ひかく</sup> 2018年調査との比較>

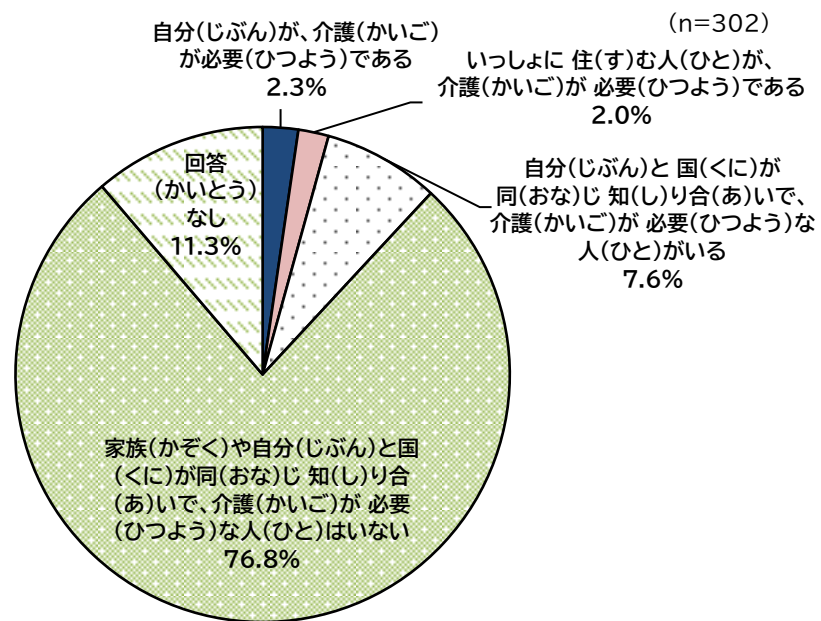




④ Q17 要介護者の有無

「家族や自分と国が同じ知り合いで、介護が必要な人はいない」の割合が最も高く76.8%である。次いで、「自分と国が同じ知り合いで、介護が必要な人がある(7.6%)」、「自分が、介護が必要である(2.3%)」である。

図表Q17 要介護者の有無

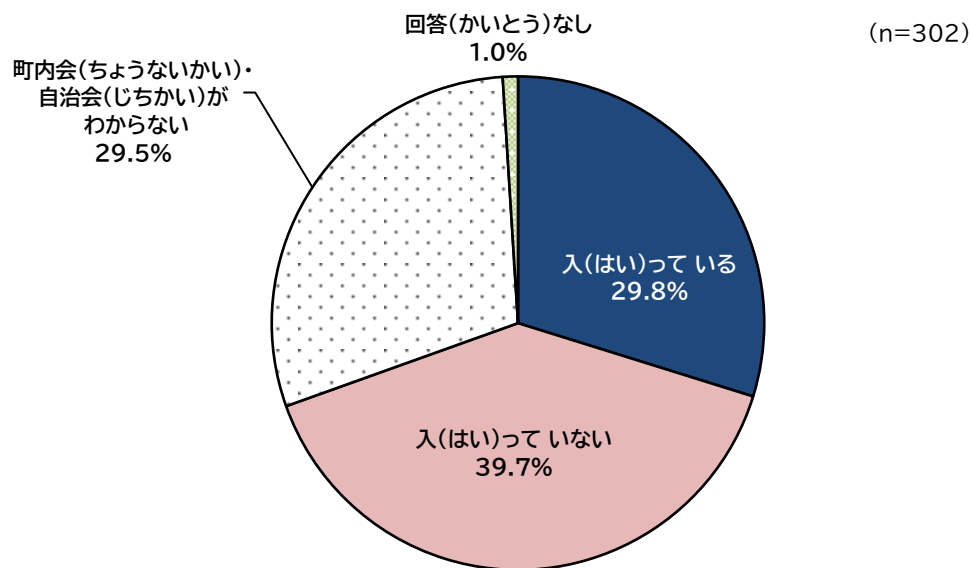


(6) 地域とのかかわりについて

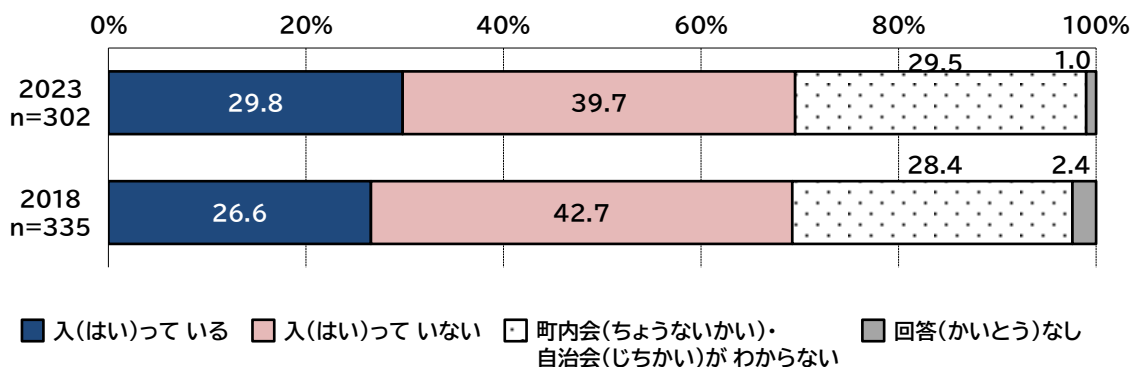
① Q18 町内会・自治会への加入状況

「入っていない」の割合が最も高く39.7%である。次いで、「入っている(29.8%)」、「町内会・自治会がわからない(29.5%)」である。

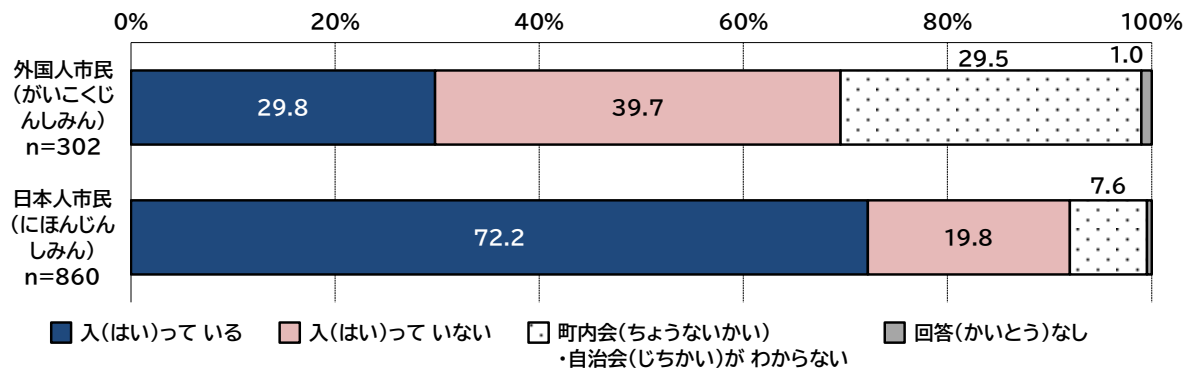
図表Q18 町内会・自治会への加入状況



<2018年調査との比較>



にほんじんしみんちょうさ ひかく  
 <日本人市民調査との比較>

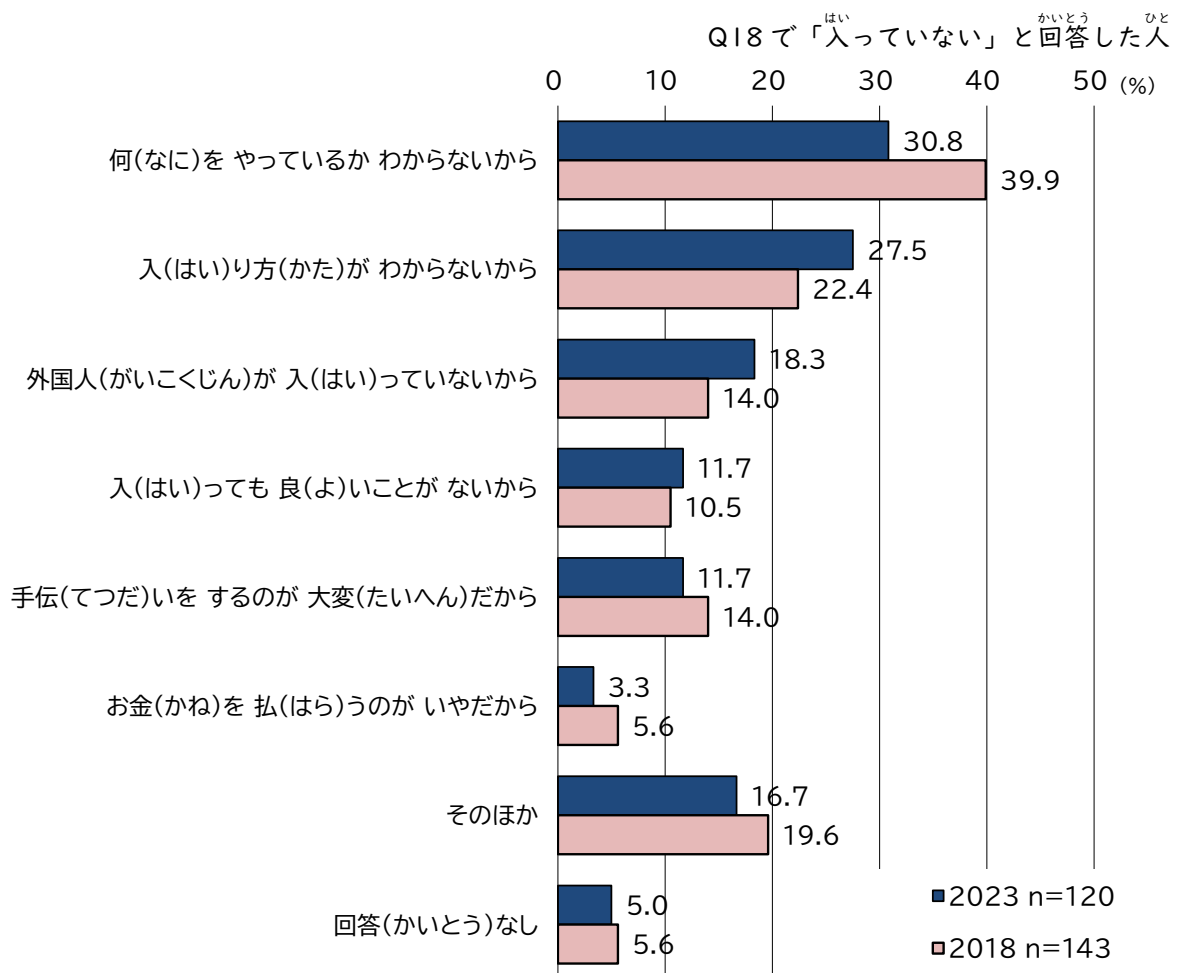


② Q18-1 町内会・自治会未入会の理由

「何をやっているかわからないから」の割合が最も高く30.8%である。次いで、「入り方がわからないから（27.5%）」、「外国人が入っていないから（18.3%）」である。

図表Q18-1 町内会・自治会未入会の理由

<2018年調査との比較>

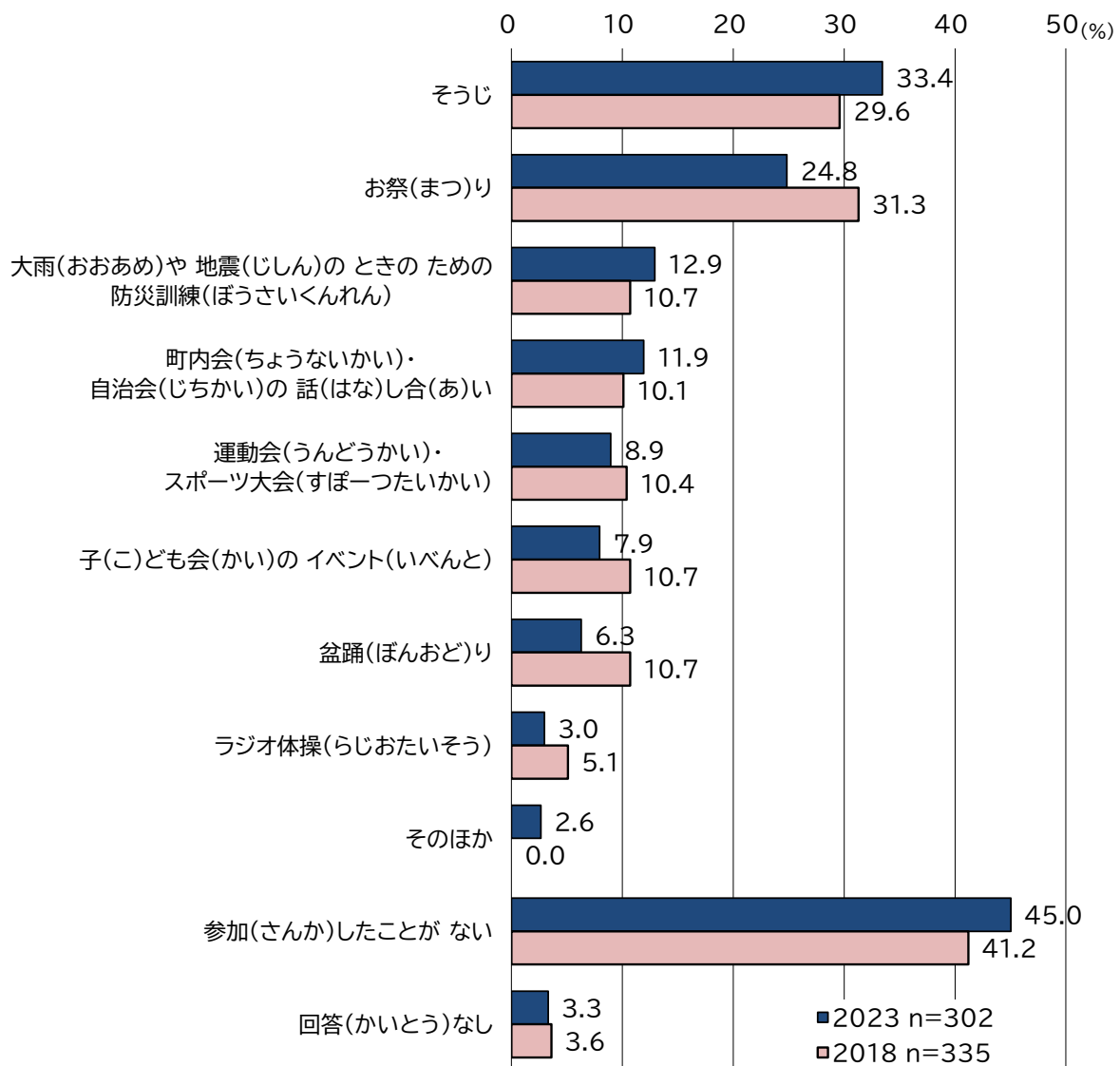


### ③ Q19 まちのイベントへの参加の有無

「参加したことがない」の割合が最も高く45.0%である。次いで、「そうじ(33.4%)」、「お祭り(24.8%)」である。

図表Q19 まちのイベントへの参加の有無

<2018年調査との比較>

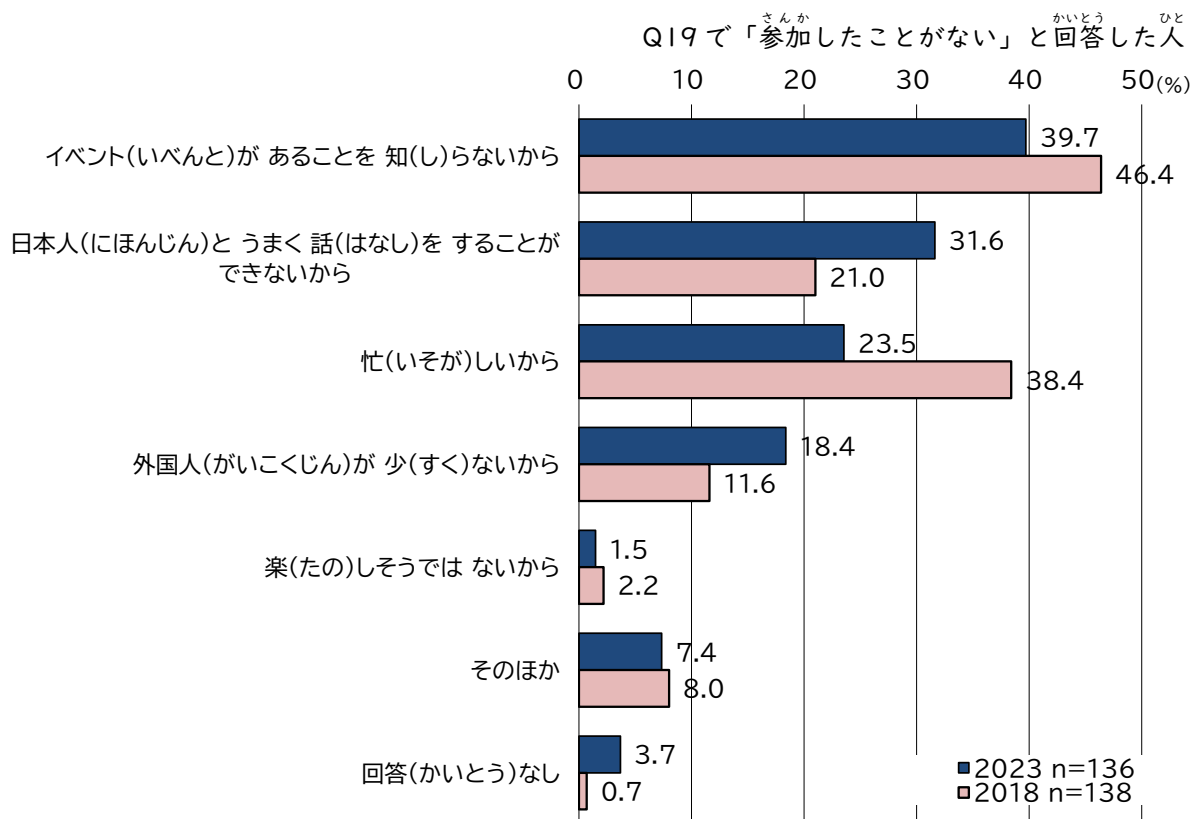


#### ④ Q19-1 まちのイベント未参加の理由

「イベントがあることを知らないから」の割合が最も高く39.7%である。次いで、「日本人とうまく話をする事ができないから（31.6%）」、「忙しいから（23.5%）」である。

図表Q19-1 まちのイベント未参加の理由

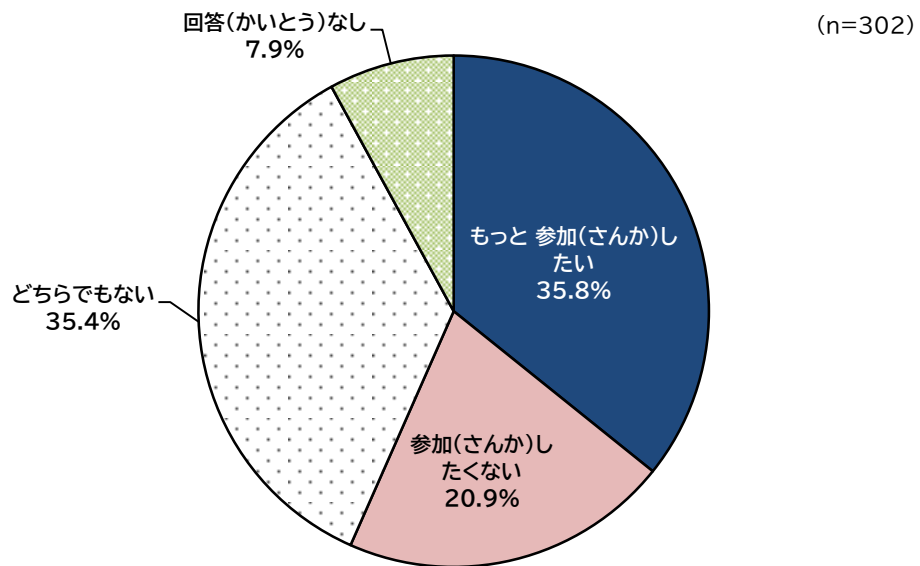
#### <2018年調査との比較>



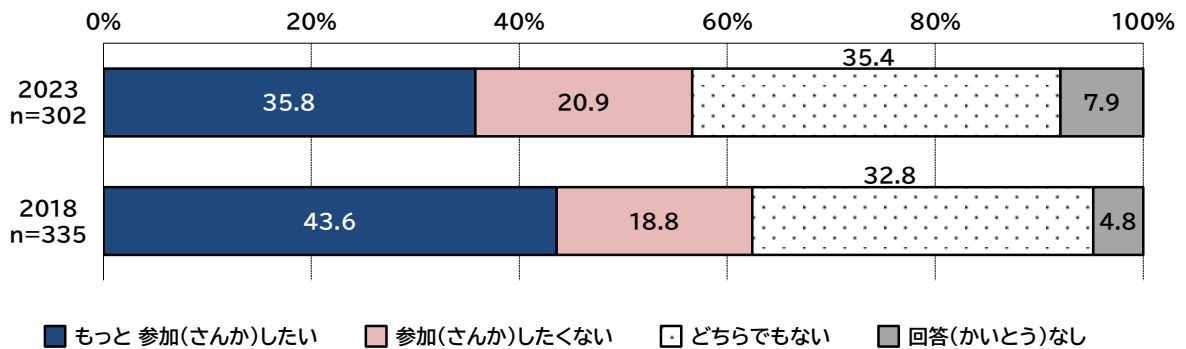
⑤ Q20 今後のまちのイベントへの参加意向

「もっと参加したい」の割合が最も高く 35.8%である。次いで、「どちらでもない (35.4%)」、「参加したくない (20.9%)」である。

図表Q20 今後のまちのイベントへの参加意向



<2018年調査との比較>

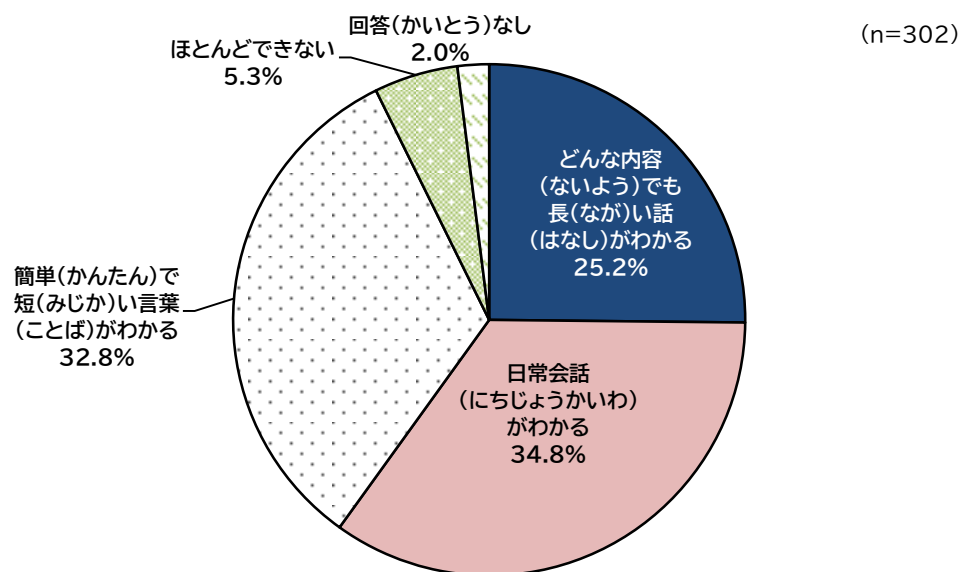


## (7) あなたの日本語について

### ① Q21 日本語能力 (聞く)

「日常会話がわかる」の割合が最も高く34.8%である。次いで、「簡単で短い言葉がわかる (32.8%)」、「どんな内容でも長い話(はなし)がわかる (25.2%)」である。

図表Q21 日本語能力 (聞く)

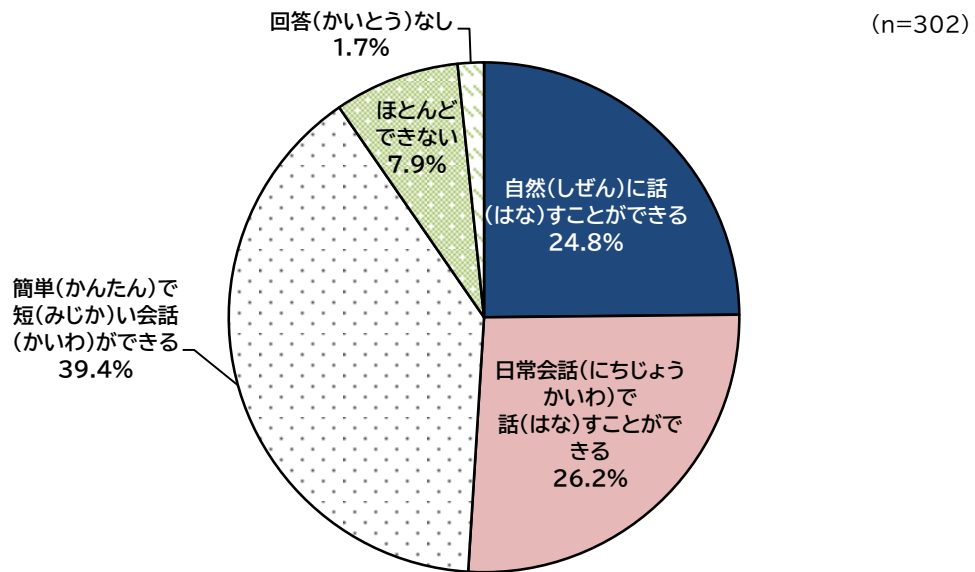




## ② Q21 にほんごのうりよく はな (話す)

「簡単(かんたん)で短(みじか)い会話(かいわ)ができる」の割合(わりあい)が最も高(たか)く39.4%である。次(つ)いで、「日常(にちじょう)会話(かいわ)で話(はな)すことができる(26.2%)」、「自然(しぜん)に話(はな)すことができる(24.8%)」である。

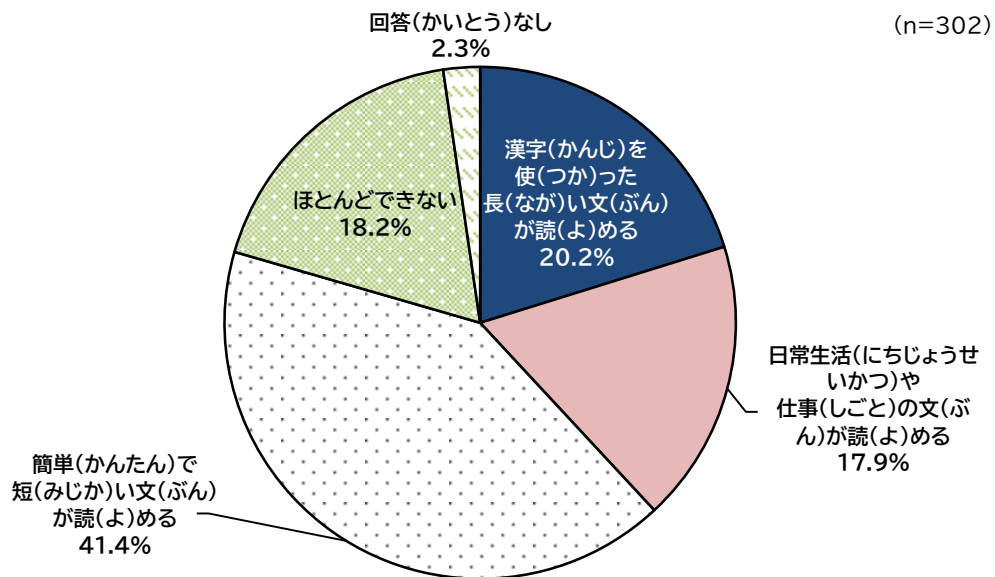
ずひょう 図表Q21 にほんごのうりよく はな (話す)



### ③ Q21 にほんごのうりよくよ (読む)

「簡単(かんたん)で短(みじか)い文(ぶん)が読(よ)める」の割合(わりあい)が最(もっと)も高(たか)く41.4%である。次(つ)いで、「漢字(かんじ)を使(つか)った長(なが)い文(ぶん)が読(よ)める(20.2%)」、「ほとん(ほとん)どでき(でき)ない(18.2%)」である。

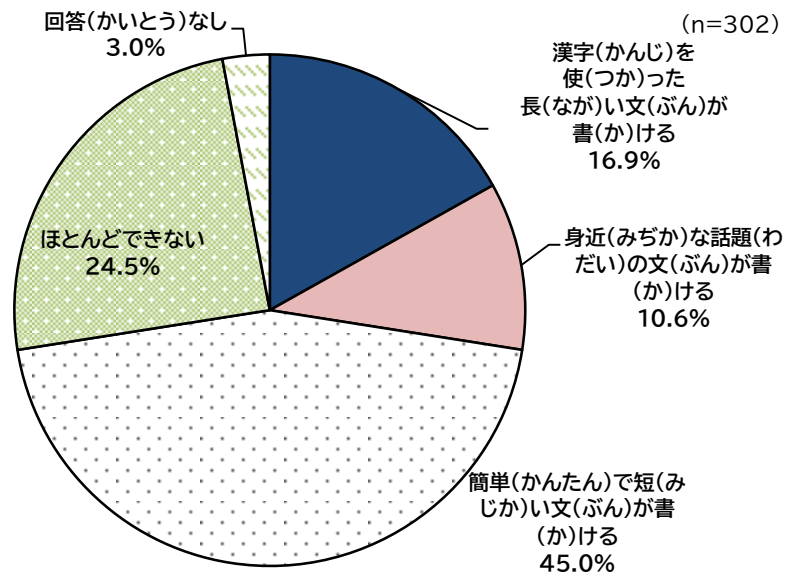
ずひょう 図表(ずひょう) Q21 にほんごのうりよくよ (読む)



④ Q21 にほんごのうりよく か  
日本語能力（書く）

「簡単で短い文が書ける」の割合が最も高く45.0%である。次いで、「ほとんどできない（24.5%）」、「漢字を使った長い文が書ける（16.9%）」である。

ずひょう 図表Q21 にほんごのうりよく か  
図表Q21 日本語能力（書く）

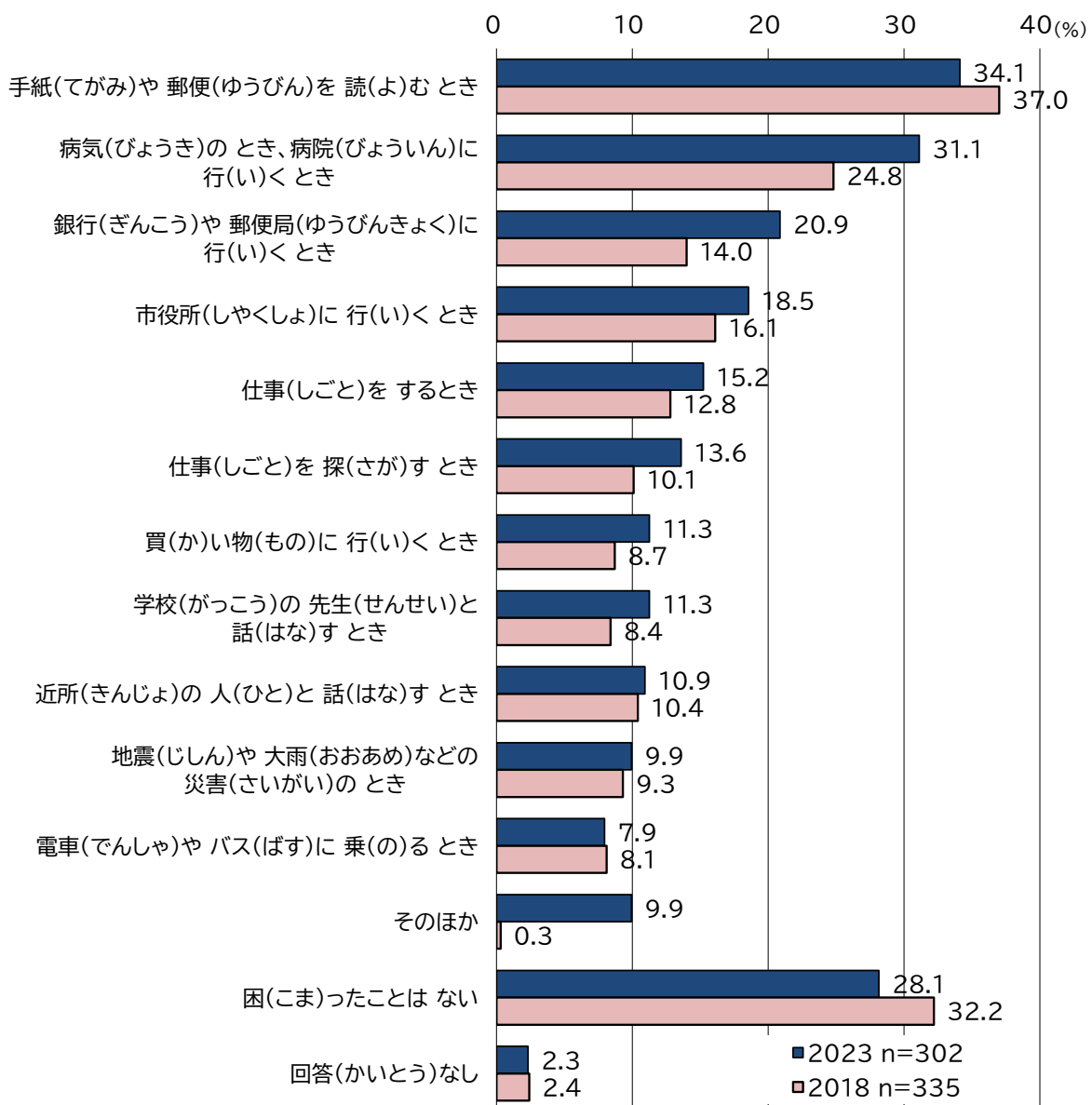


⑤ Q22 <sup>にほんご</sup>日本語で困ったこと

「<sup>てがみ</sup>手紙や<sup>ゆうびん</sup>郵便を読むとき」の割合が<sup>わりあい</sup>最も<sup>もつ</sup>高く34.1%である。次いで、「<sup>びょうき</sup>病気のとき、<sup>びょういん</sup>病院に行くとき（31.1%）」、「<sup>こま</sup>困ったことはない（28.1%）」である。

ずひょう 図表Q22 <sup>にほんご</sup>日本語で困ったこと

<2018年<sup>ねんちようさ</sup>調査との<sup>ひかく</sup>比較>

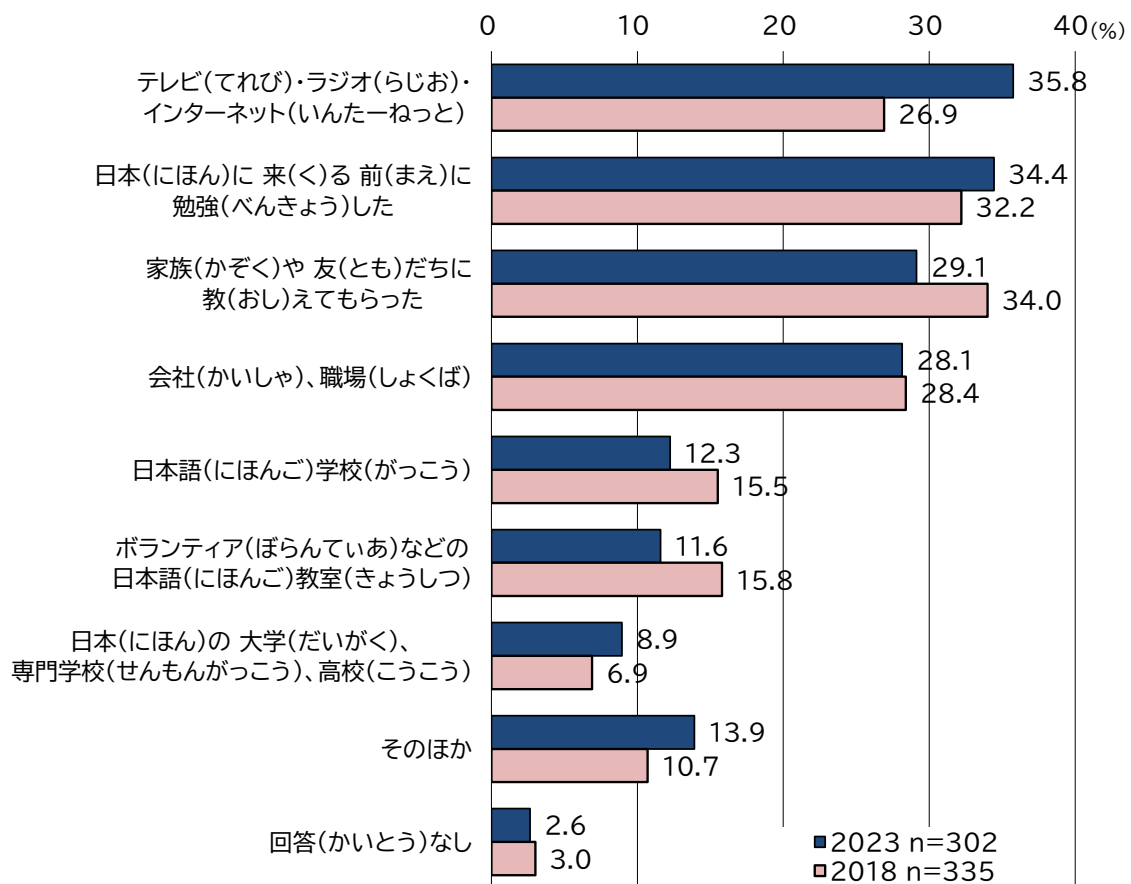


⑥ Q23 これまでの日本語勉強方法

「テレビ・ラジオ・インターネット」の割合が最も高く35.8%である。次いで、「日本に来る前に勉強した(34.4%)」、「家族や友達に教えてもらった(29.1%)」である。

図表Q23 これまでの日本語勉強方法

<2018年調査との比較>

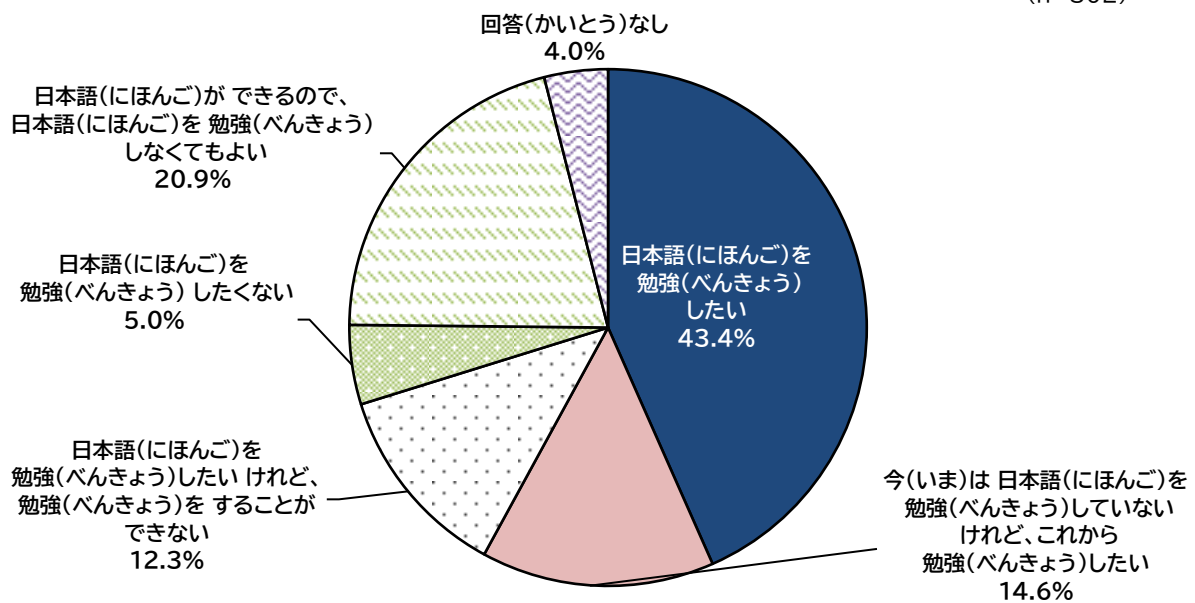


⑦ Q24 日本語の勉強意向

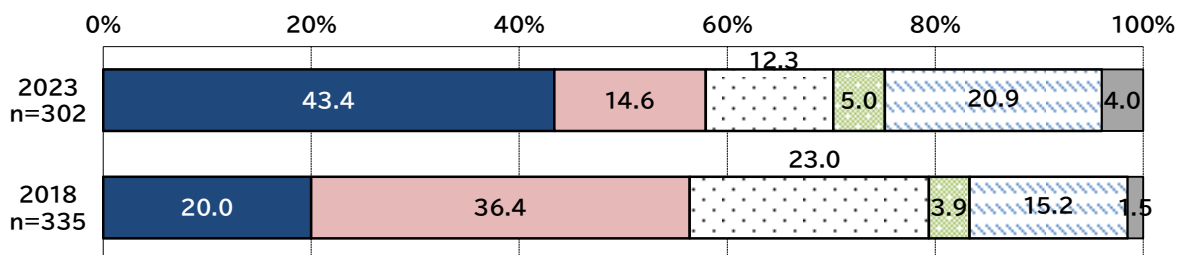
「日本語を勉強したい」の割合が最も高く43.4%である。次いで、「日本語ができるので、日本語を勉強しなくてもよい(20.9%)」、「今は日本語を勉強していないけれど、これから勉強したい(14.6%)」である。

図表Q24 日本語の勉強意向

(n=302)



<2018年調査との比較>



- 日本語(にほんご)を勉強(べんきょう)したい※
- 今(いま)は日本語(にほんご)を勉強(べんきょう)していないけれど、これから勉強(べんきょう)したい
- 日本語(にほんご)を勉強(べんきょう)したいけれど、勉強(べんきょう)をすることができない
- 日本語(にほんご)を勉強(べんきょう)したくない
- 日本語(にほんご)ができるので、日本語(にほんご)を勉強(べんきょう)しなくてもよい
- 回答(かいとう)なし

※2018年は「今、日本語を勉強している」

⑧ Q24-1 希望する日本語の勉強方法

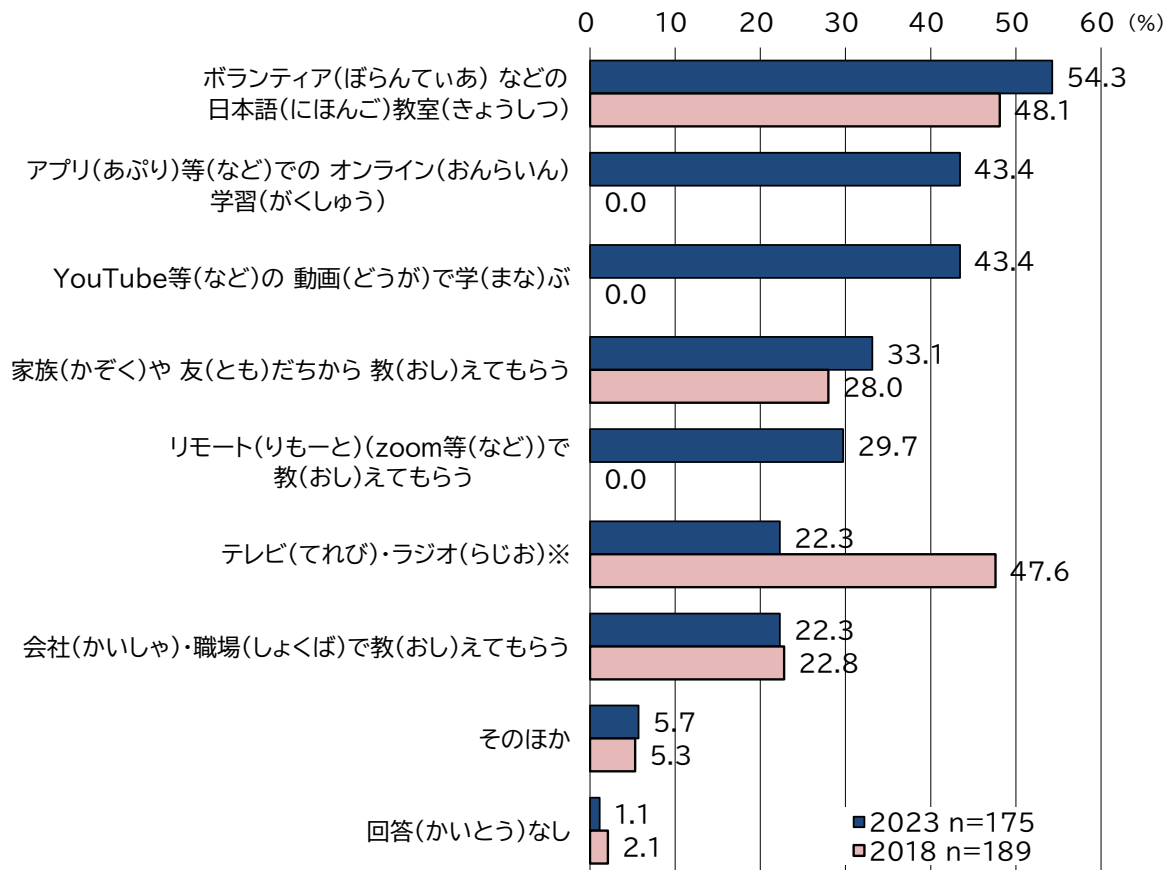
「ボランティアなどの日本語教室」の割合が最も高く54.3%である。次いで、「アプリ等でのオンライン学習（43.4%）」、「YouTube等の動画で学ぶ（43.4%）」、「家族や友だちから教えてもらう（33.1%）」である。

図表Q24-1 希望する日本語の勉強方法

<2018年調査との比較>

Q24で「日本語を勉強したい」、

「今は日本語を勉強していないけれど、これから勉強したい」と回答した人



※2018年は「テレビ・ラジオ・インターネット」

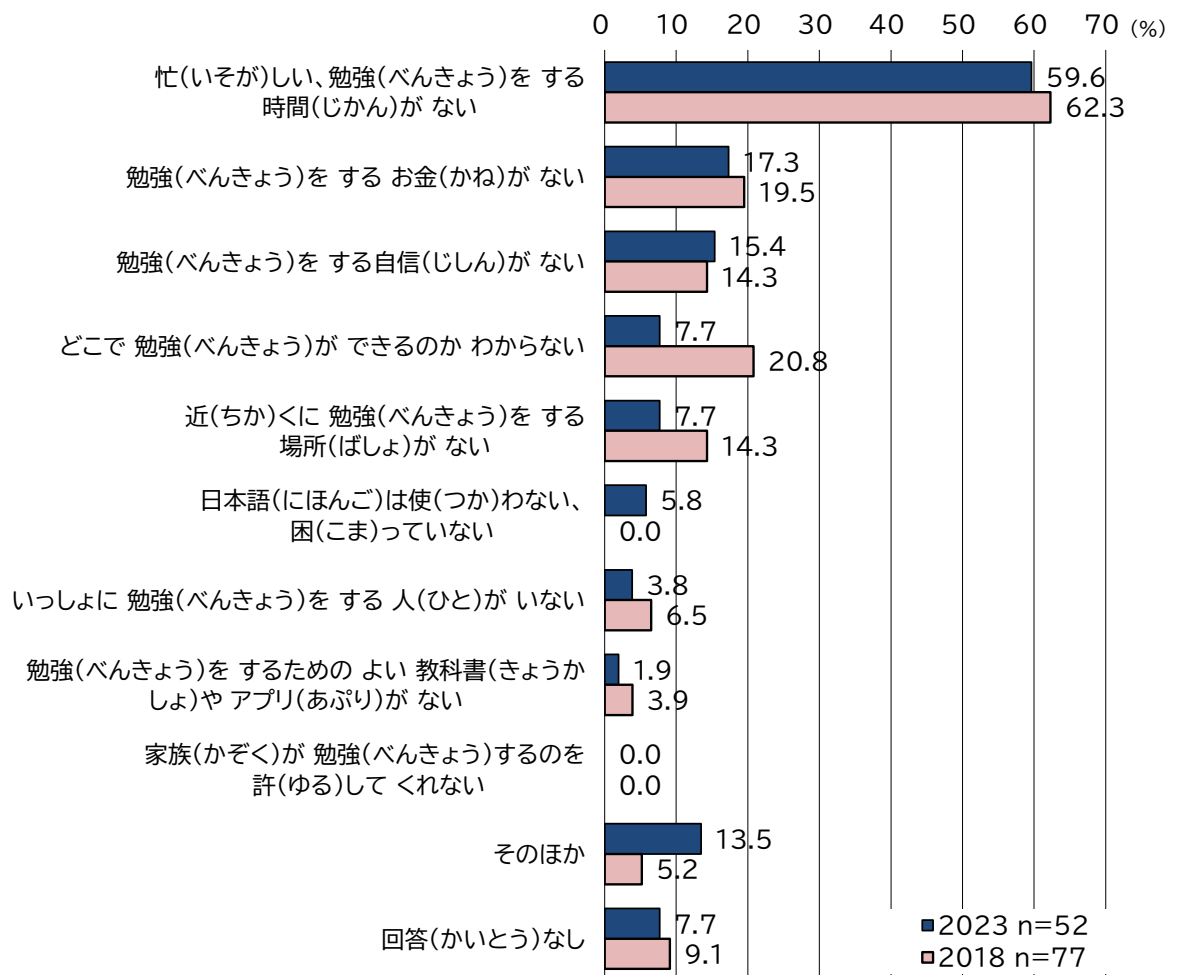
⑨ Q24-2 <sup>にほんご</sup> <sup>べんきょう</sup> 日本語を勉強できない、したくない理由 <sup>りゆう</sup>

「<sup>いそが</sup>忙しい、<sup>べんきょう</sup>勉強をする<sup>じかん</sup>時間がない」の割合が最も高く59.6%である。次いで、「<sup>べんきょう</sup>勉強をする<sup>かね</sup>お金がない（17.3%）」、「<sup>べんきょう</sup>勉強をする<sup>じしん</sup>自信がない（15.4%）」である。

ずひょう 図表Q24-2 <sup>にほんご</sup> <sup>べんきょう</sup> 日本語を勉強できない、したくない理由 <sup>りゆう</sup>

<2018年調査との比較> <sup>ねんちようさ</sup> <sup>ひかく</sup>

Q24で「<sup>にほんご</sup>日本語を<sup>べんきょう</sup>勉強したいけれど、<sup>べんきょう</sup>勉強をすることができない」、  
「<sup>にほんご</sup>日本語を<sup>べんきょう</sup>勉強したくない」と回答した人 <sup>かいとう</sup> <sup>ひと</sup>





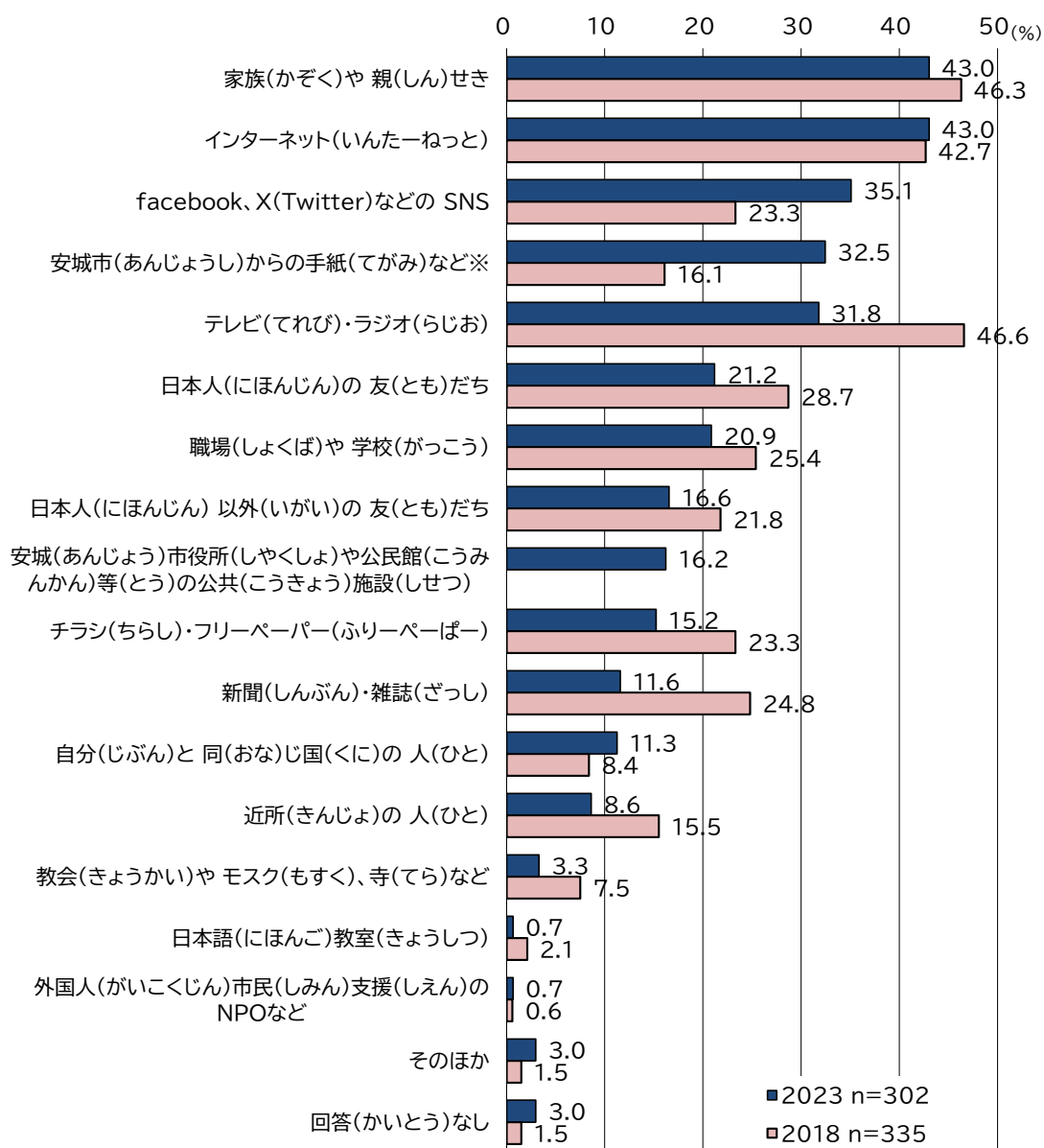
## (8) 情報を手に入れる方法、相談について

### ① Q25 情報の入手方法

「家族や親せき」、「インターネット」の割合が最も高く、それぞれ43.0%である。次いで、「facebook、X(Twitter)などのSNS (35.1%)」、「安城市からの手紙など (32.5%)」である。

図表Q25 情報の入手方法

#### <2018年調査との比較>

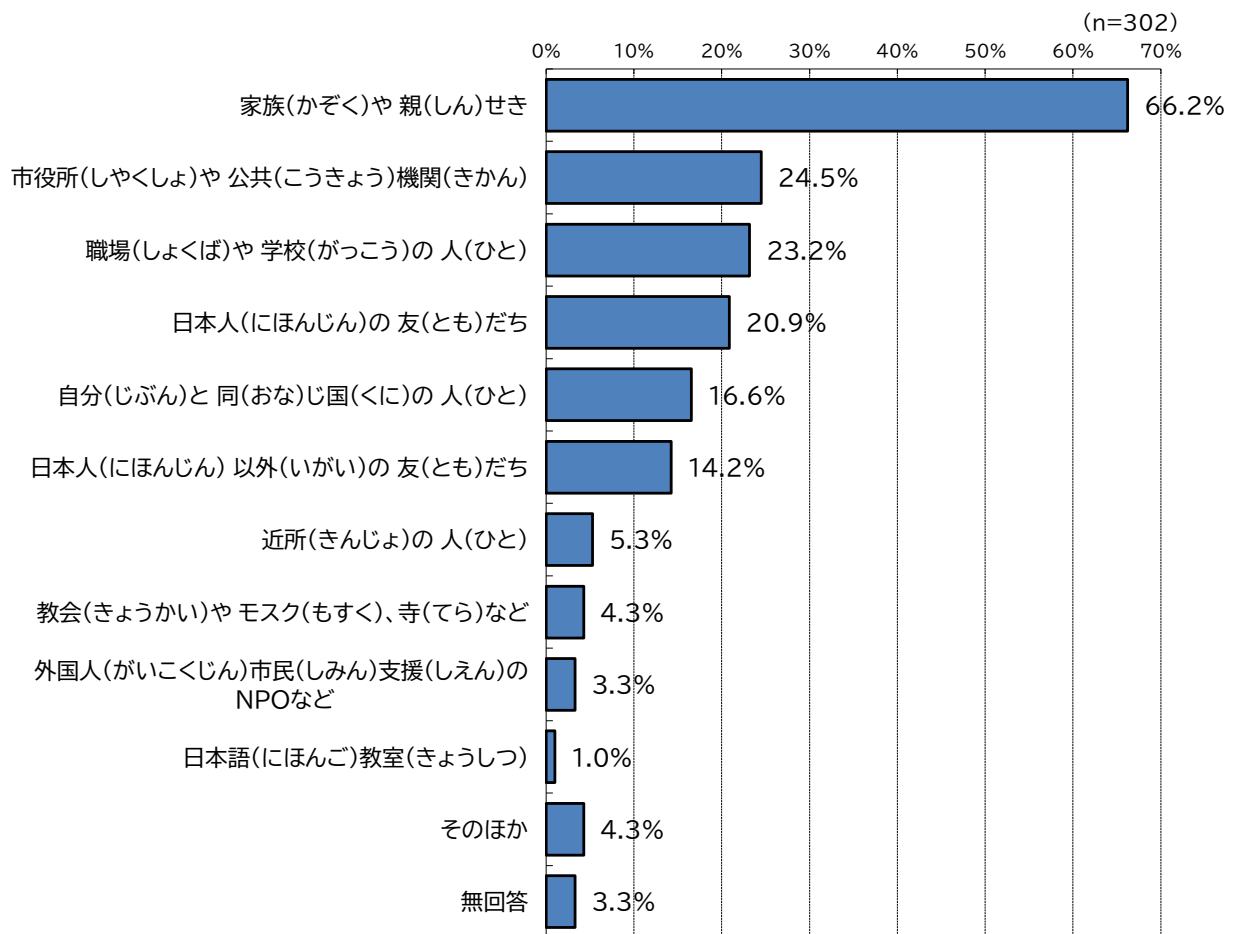


※2018年は「安城市や国際交流協会からのお知らせ」

② Q26 にほん せいかつ こま とき そうだんあいて  
 日本での生活に困った時の相談相手

「家族(かぞく)や親(しん)せき」の割合が最も高く66.2%である。次いで、「市役所(しやくしょ)や公共(こうきょう)機関(きかん) (24.5%)」、「職場(しょくば)や学校(がっこう)の人(ひと) (23.2%)」である。

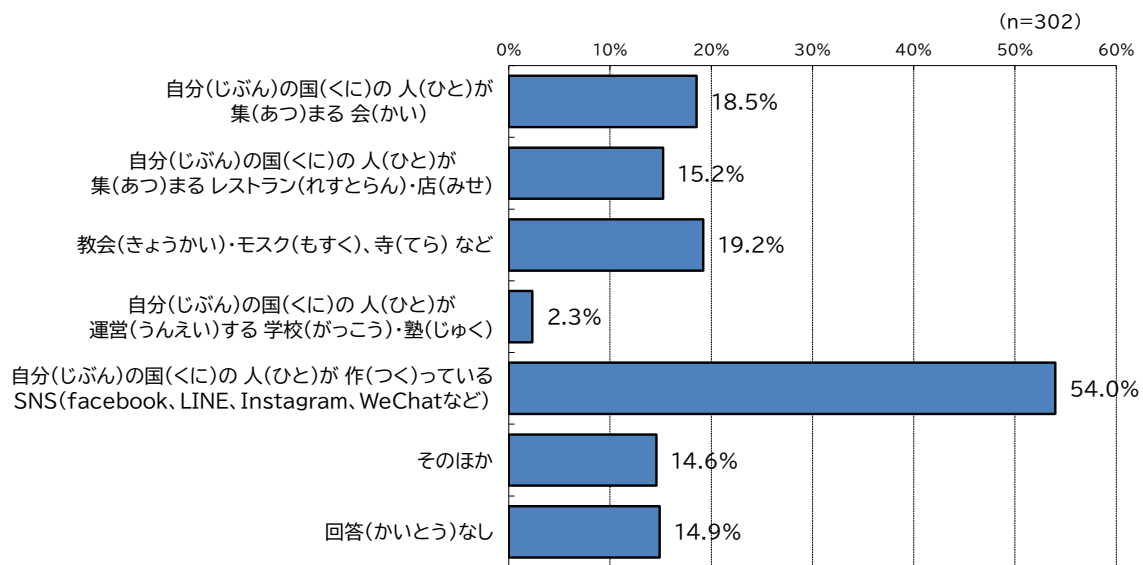
ずひょう 図表Q26 にほん せいかつ こま とき そうだんあいて  
 図表Q26 日本での生活に困った時の相談相手



### ③ Q27 おな くに ひと こうりゅうばしょ 同じ国の人との交流場所

「自分の国の人(ひと)が作(つく)っている SNS (facebook、LINE、Instagram、WeChat など)」の割合(わりあい)が最も(もっと)高く(たか) 54.0%である。次(つ)いで、「教会(きょうかい)・モスク(もすく)、寺(てら)など(19.2%)」、「自分の国(じぶん くに)の人(ひと)が集(あつ)まる会(かい) (18.5%)」である。

ずひょう 図表Q27 おな くに ひと こうりゅうばしょ  
図表Q27 同じ国の人との交流場所

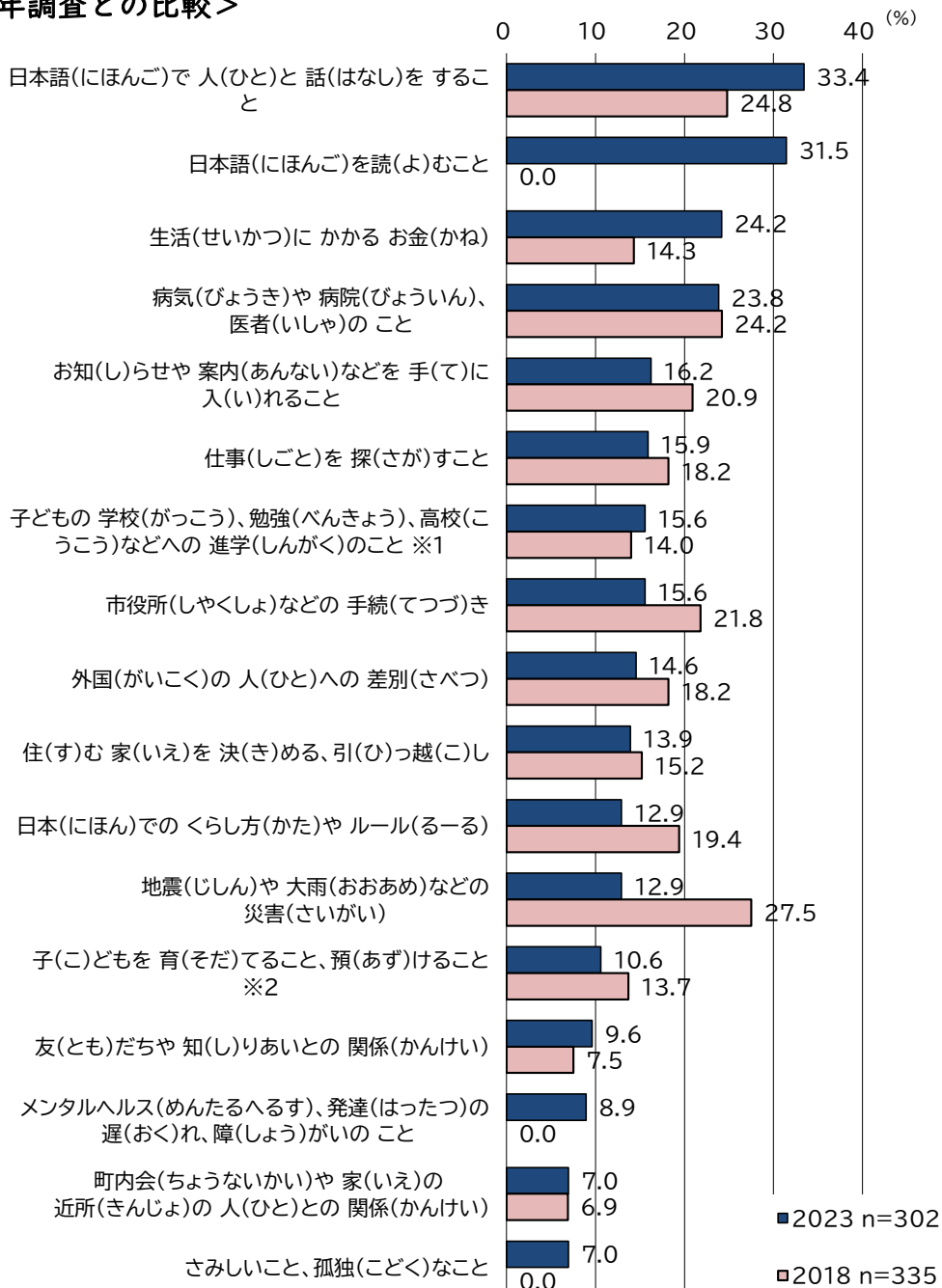


④ Q28 日本で困っていること・相談したいこと

「日本語で人と話をすること」の割合が最も高く33.4%である。次いで、「日本語を読むこと（31.5%）」、「生活にかかるお金（24.2%）」である。

図表Q28 日本で困っていること・相談したいこと

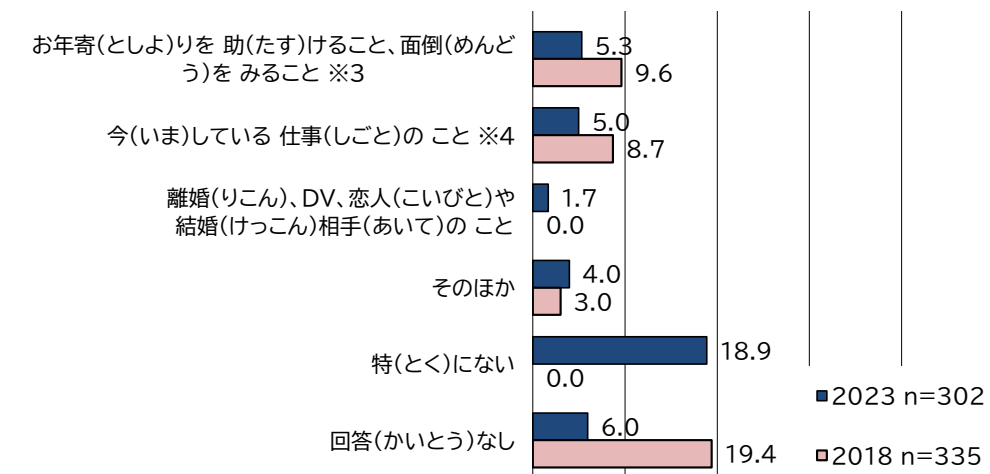
<2018年調査との比較>



※1 2018年は「教育(きやういく)や勉強(べんきょう)のこと」

※2 2018年は「子ども(こ)を育て(そだ)てること」

ずひょう 図表Q28 にほん こま 日本で困っていること・相談したいこと（つづき）



※3 2018年は「お年寄りを助けること」

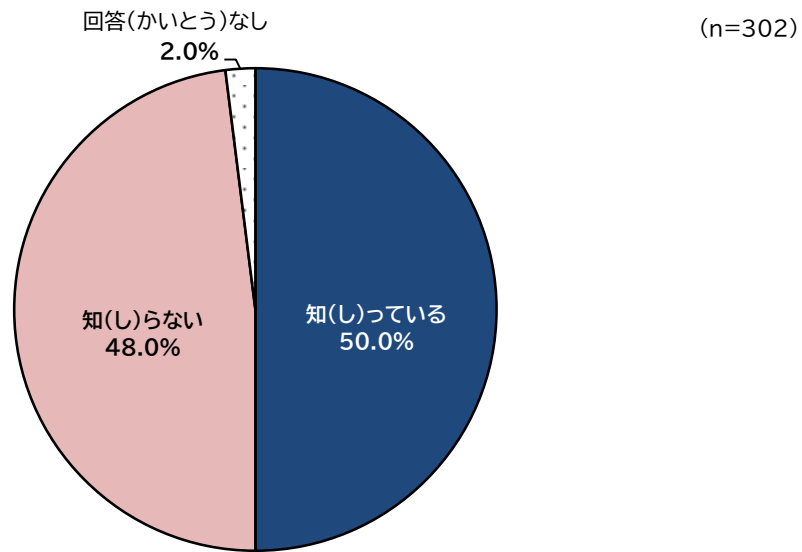
※4 2018年は「今している仕事や仕事をする場所」

(9) 防災について

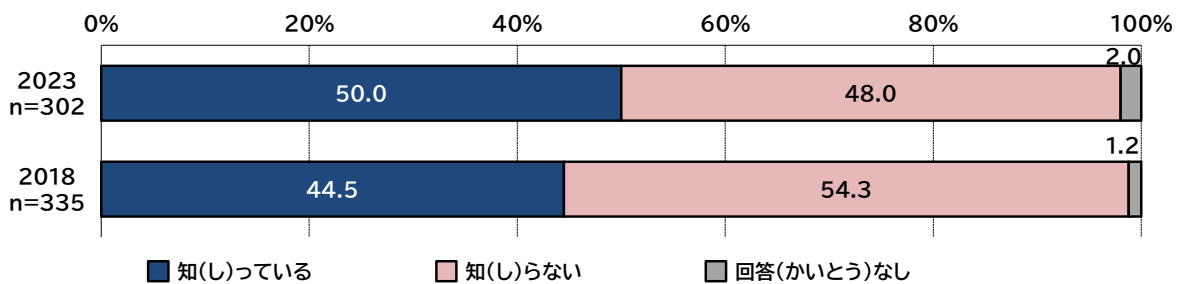
① Q29 避難所等の認知度

「知っている」の割合が最も高く 50.0%である。次いで、「知らない (48.0%)」である。

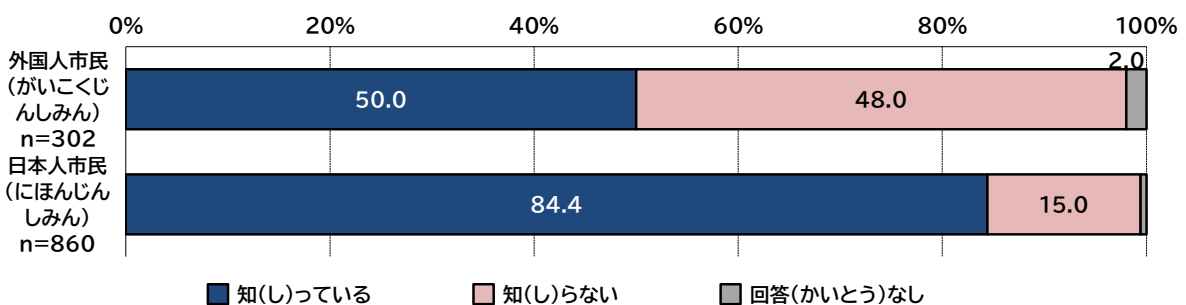
図表Q29 避難所等の認知度



<2018年調査との比較>



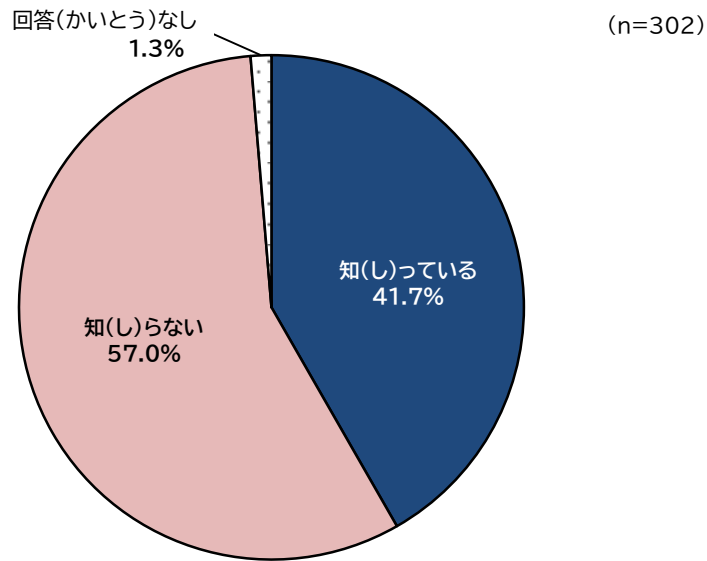
<日本人市民調査との比較>



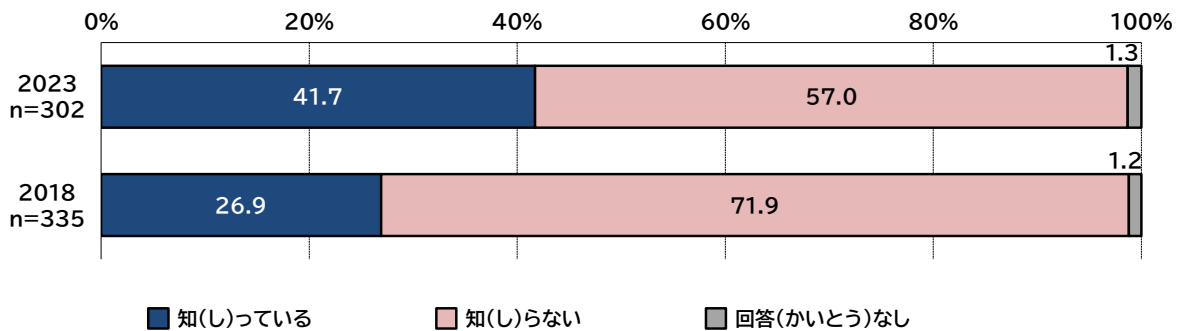
② Q30 「ハザードマップ」等の認知度

「知らない」の割合が最も高く 57.0%である。次いで、「知っている」(41.7%)である。

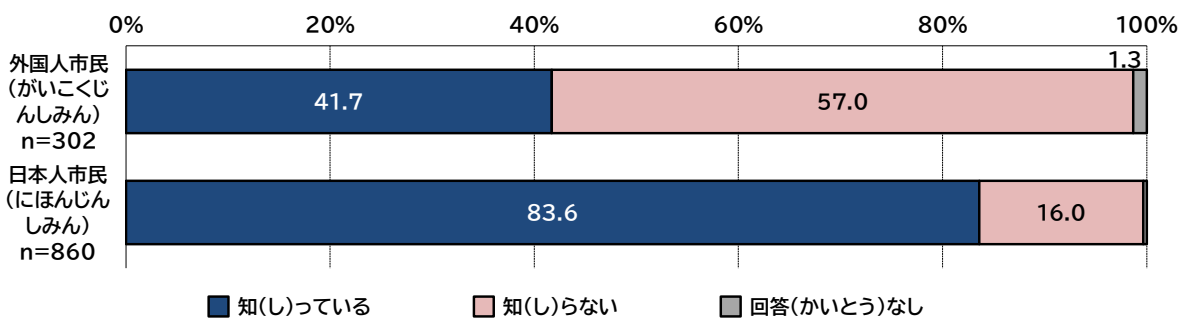
図表Q30 「ハザードマップ」等の認知度



<2018年調査との比較>



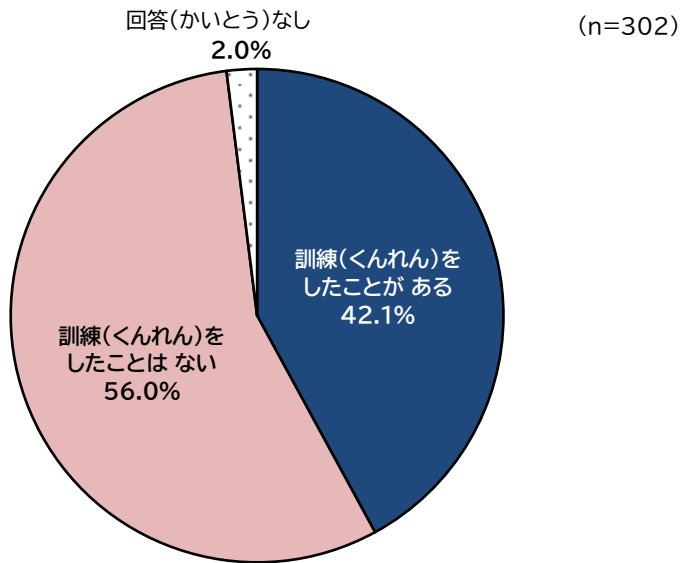
<日本人市民調査との比較>



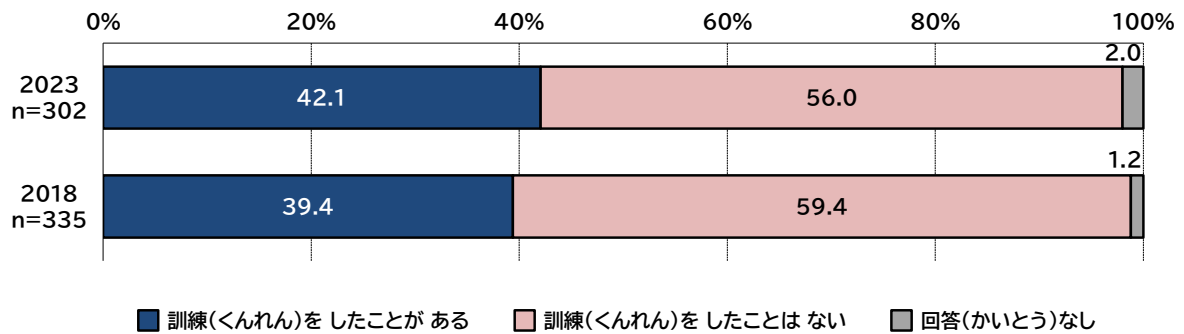
③ Q31 避難訓練の経験の有無

「訓練をしたことはない」の割合が最も高く56.0%である。次いで、「訓練をしたことがある（42.1%）」である。

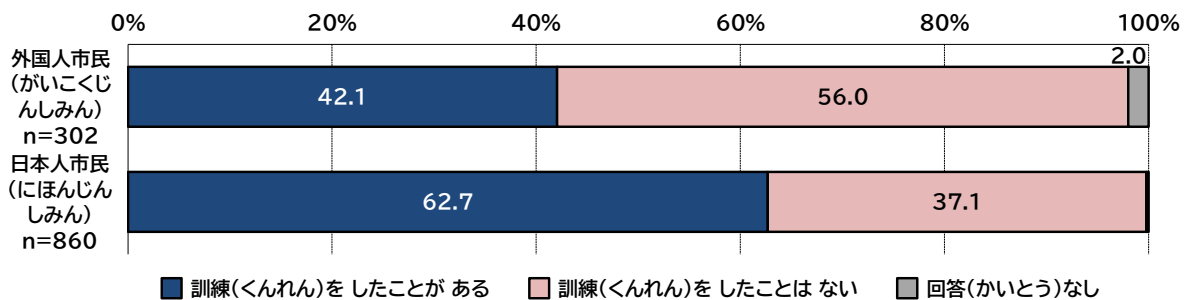
図表Q31 避難訓練の経験の有無



<2018年調査との比較>



<日本人市民調査との比較>

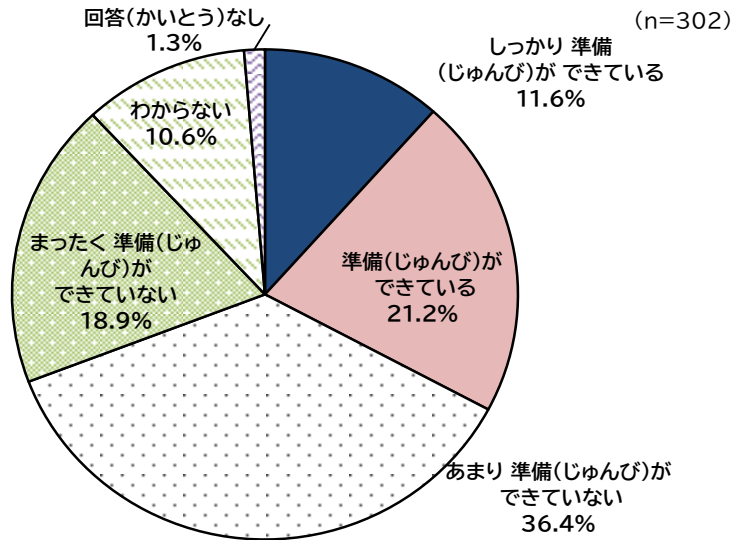




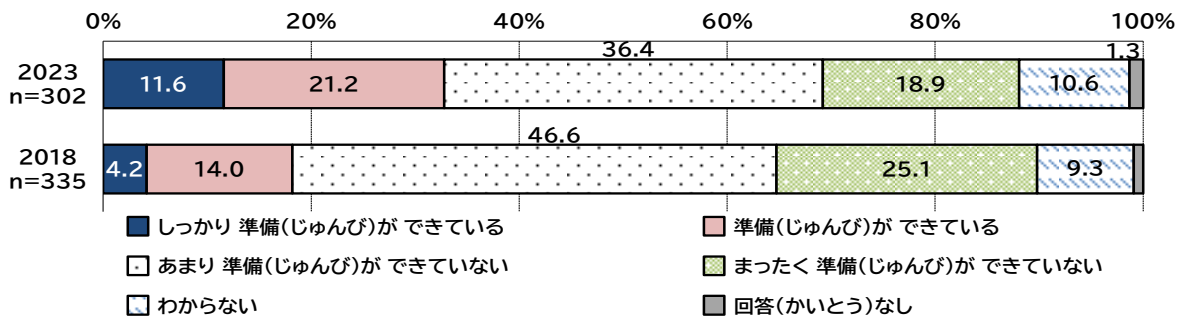
④ Q32 災害への準備状況

「あまり準備ができていない」の割合が最も高く36.4%である。次いで、「準備ができていない（21.2%）」、「まったく準備ができていない（18.9%）」である。

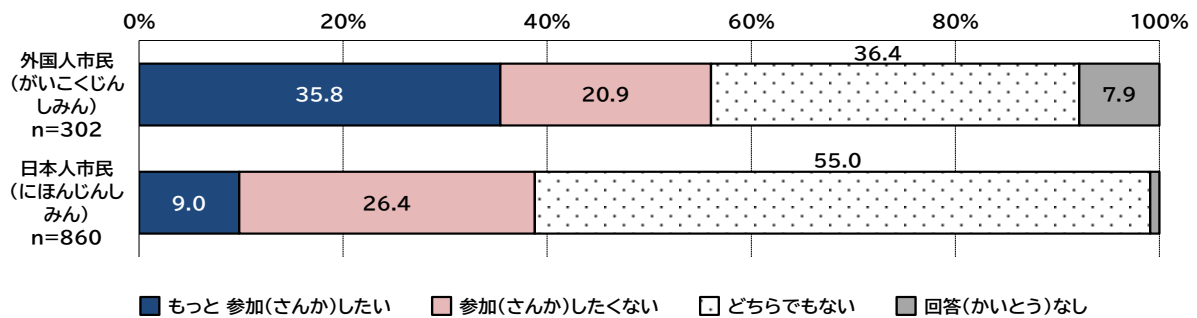
図表Q32 災害への準備状況



<2018年調査との比較>



<日本人市民調査との比較>



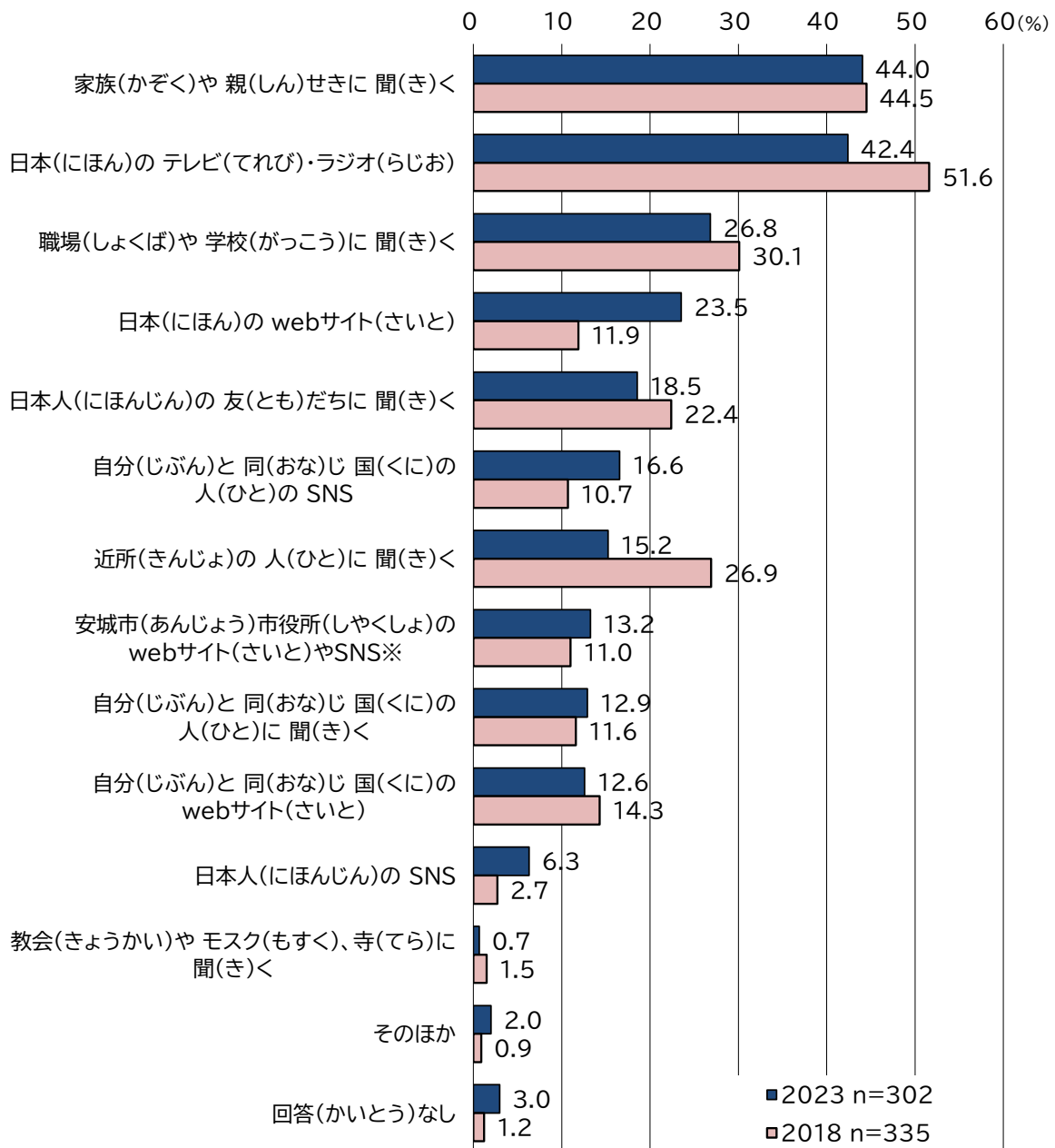
日本人市民の選択肢は、※1「十分(じゅうぶん)できている」、※2「どちらかという(どちらかという)とできている」、※3「あまり(あまり)十分(じゅうぶん)ではない」、※4「まったく(まったく)できていない」。

⑤ Q33 災害関係の情報を知る方法

「家族や親せきに聞く」の割合が最も高く44.0%である。次いで、「日本のテレビ・ラジオ（42.4%）」、「職場や学校に聞く（26.8%）」である。

図表Q33 災害関係の情報を知る方法

<2018年調査との比較>



※2018年は「安城市役所のwebサイトやFacebook」

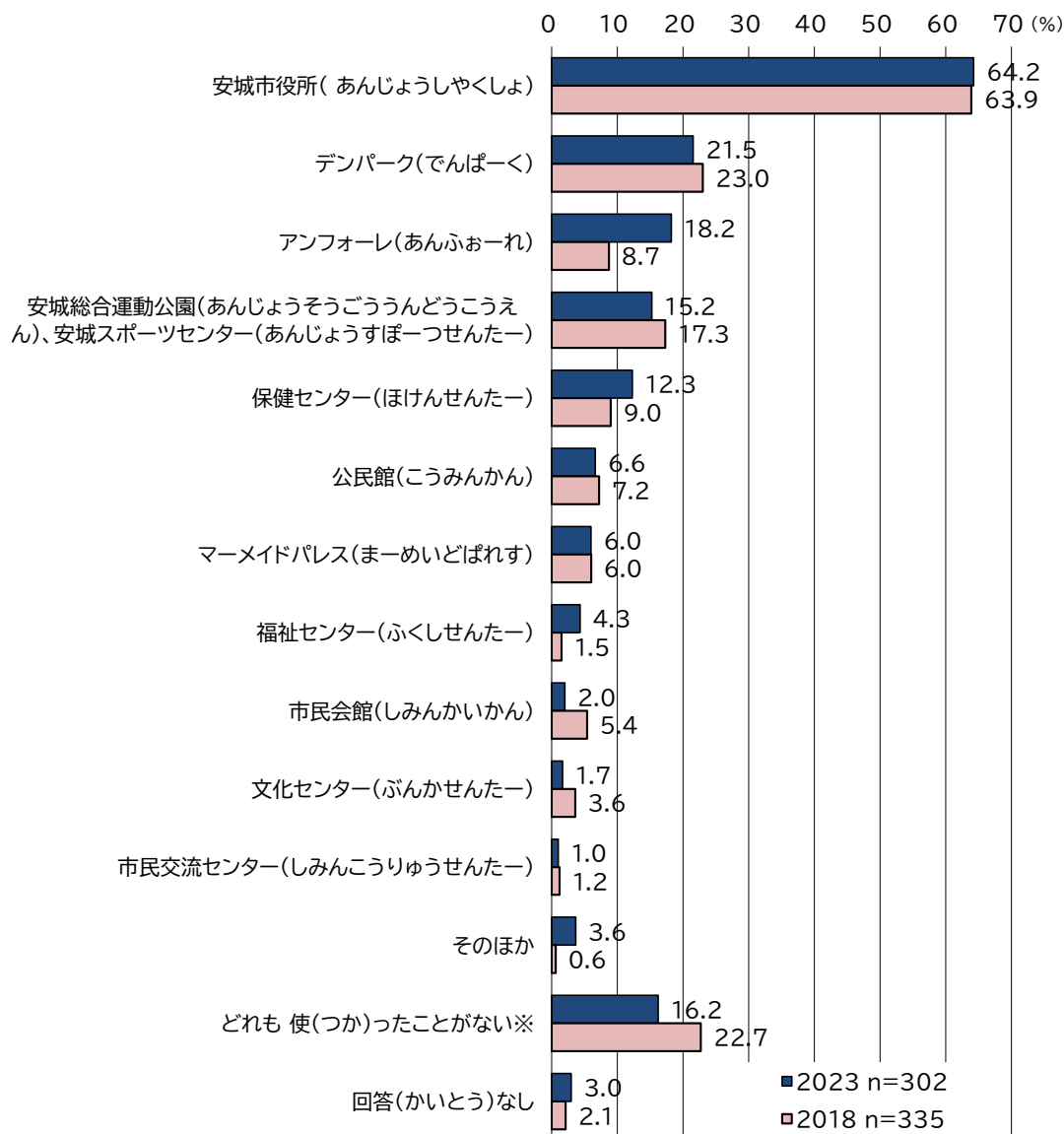
(10) 安城市の取組について

① Q34 よく使う場所

「安城市役所」の割合が最も高く64.2%である。次いで、「デンパーク(21.5%)」、「アンフォーレ(18.2%)」である。

図表Q34 よく使う場所

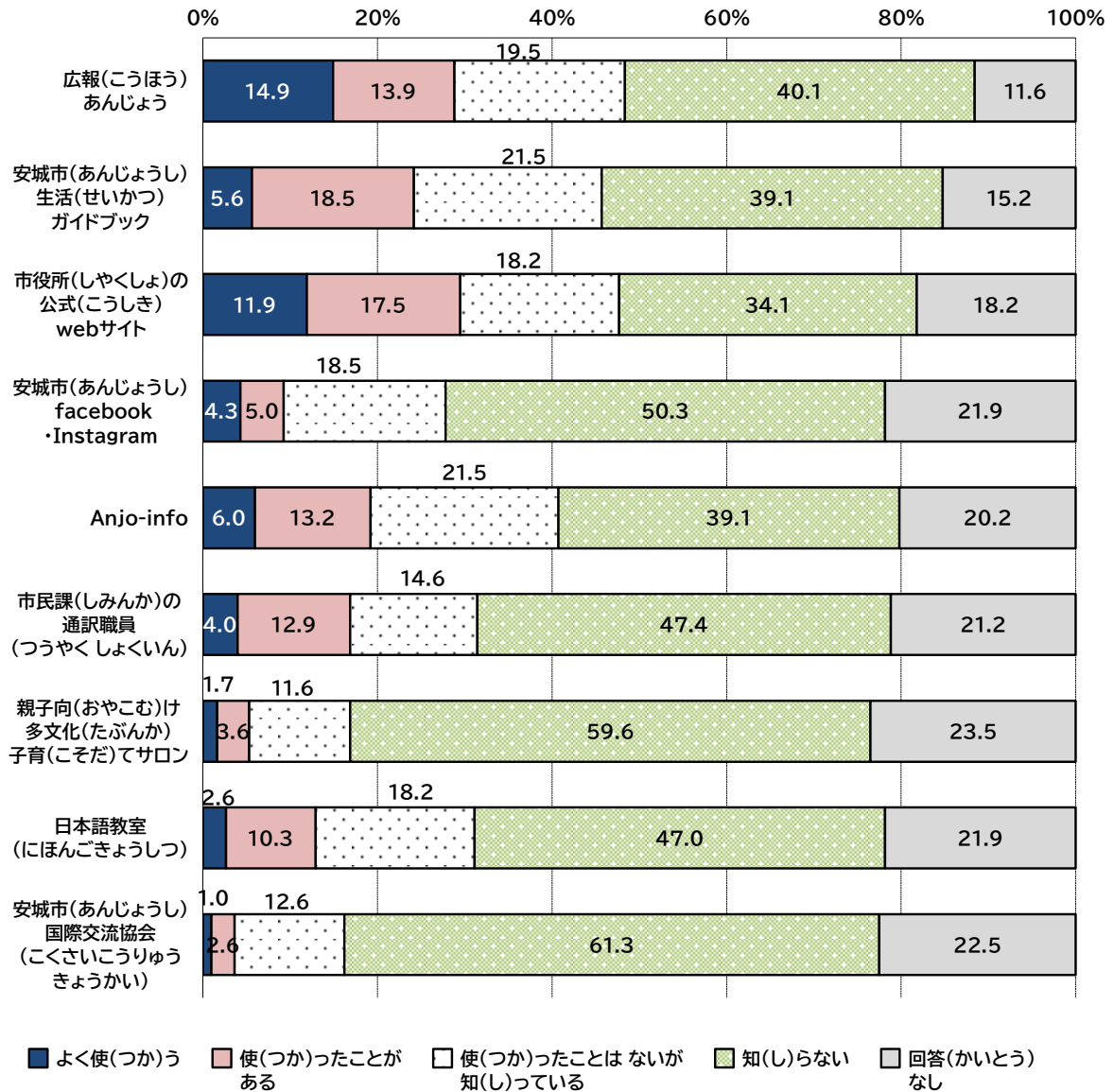
<2018年調査との比較>



※2018年は「どれも使わない」

② Q35 安城市の外国人支援、多文化共生の取組の利用・認知

図表Q35 安城市の外国人支援、多文化共生の取組の利用・認知

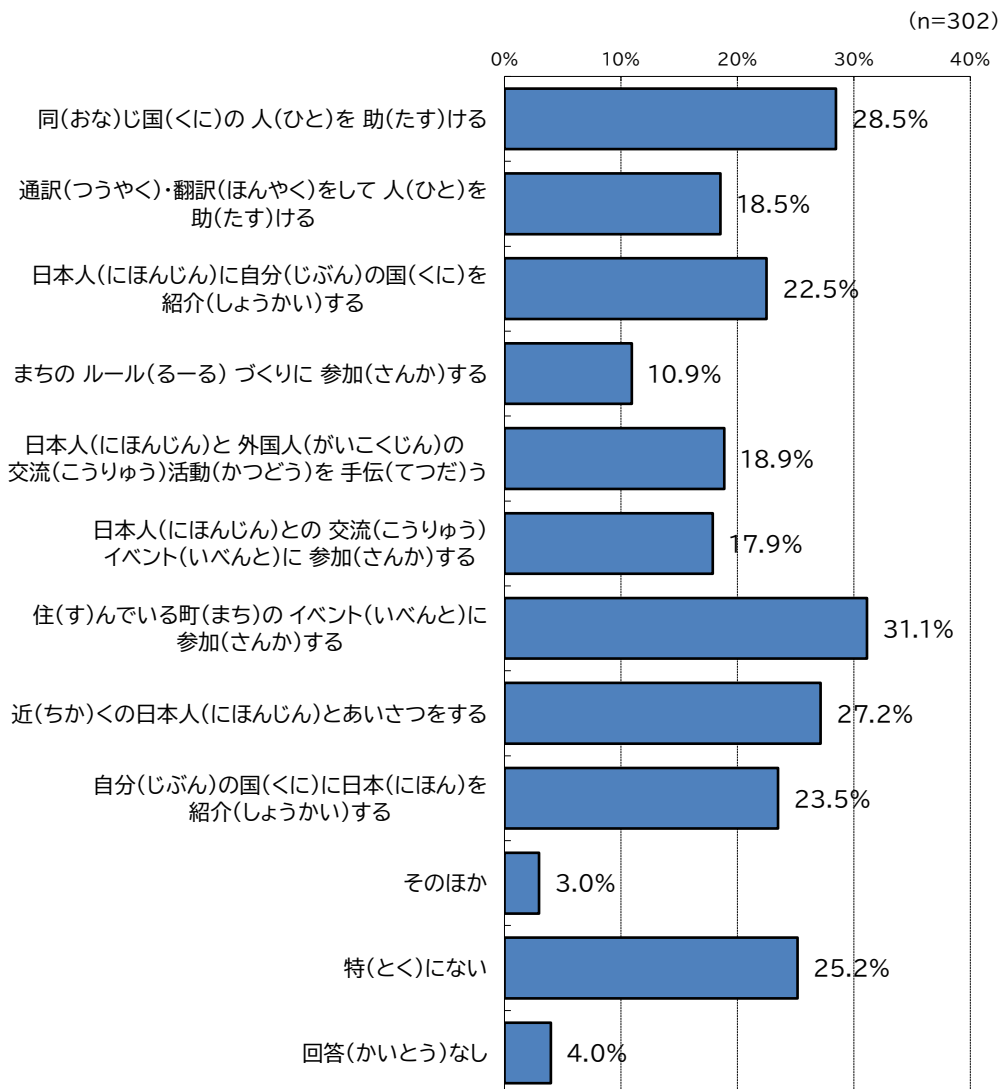


(11) 多文化共生について

① Q36 これからやってみたいこと

「住んでいる町のイベントに参加する」の割合が最も高く31.1%である。次いで、「同じ国の人を助ける(28.5%)」、「近くの日本人とあいさつをする(27.2%)」である。

図表Q36 これからやってみたいこと

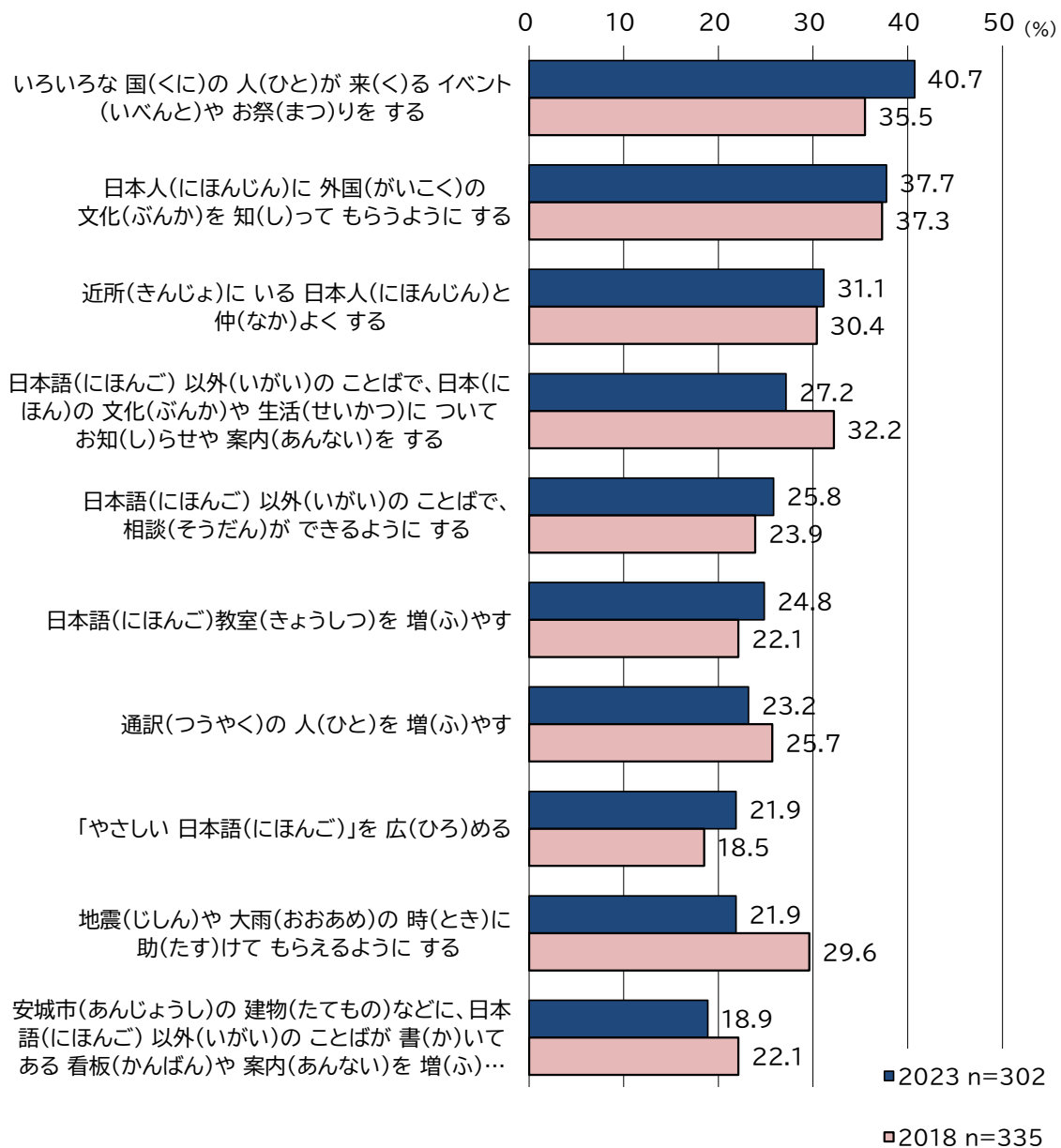


② Q37 多文化共生を進めるため必要な取組

「いろいろな国(くに)の人が来るイベントやお祭りをする」の割合が最も高く40.7%である。次いで、「日本人(にほんじん)に外国(がいこく)の文化(ぶんか)を知(し)てもらうようにする(37.7%)」、「近所(きんじょ)にいる日本人(にほんじん)と仲(なか)よくする(31.1%)」である。

図表Q37 多文化共生を進めるため必要な取組

<2018年調査との比較>



ずひょう たぶん かきょうせい すす ひつよう とりくみ  
 図表Q37 多文化共生を進めるため必要な取組（つづき）

